

2020 年度

# 救急車同乗実習 実施結果報告書



日本体育大学

保健医療学部 救急医療学科



2020 年度  
**救急車同乗実習 実施結果報告書**  
日本体育大学 保健医療学部 救急医療学科

目次

学科長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

実習の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

感謝の言葉（履修学生より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

救急車同乗実習への期待（次年度履修学生）・・・・・・・・・・・・ 22



消防機関での実習（撮影協力：小田原市消防本部）



全体研修（講師：一般社団法人プロボノ消防志）



## 学科長あいさつ

日本体育大学 保健医療学部  
救急医療学科 学科長 小川 理郎

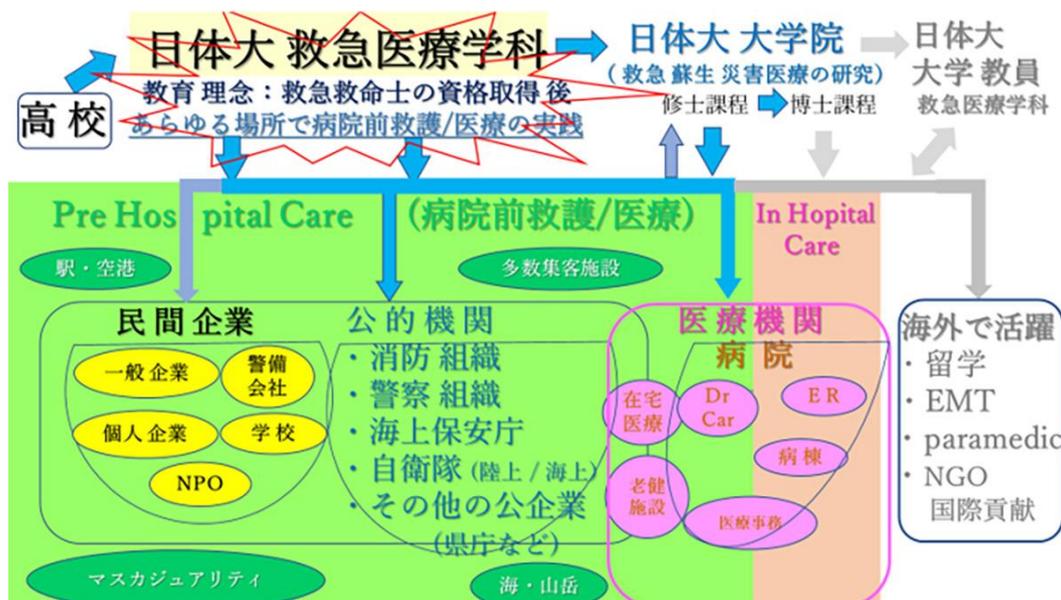


今年度は新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響で、世界中の社会システムや生活スタイルが一変させられました。2度の緊急事態宣言まで発動されて、厳しい外出宣言を受けて、恒例行事やあらゆるイベントまでが延期や中止になりました。大学内でも複数の新型コロナウイルス陽性者が出て、従来では当たり前に行われていた教育体制にまでその多大な影響が及んでいます。学生と教員には登校不能や厳しい制限がかかり、On-lineでの教育が主になりました。学習環境は激変して今もその悪影響は計り知れません。

救急車同乗実習は、学生が入学して以来ずっと最大の楽しみにしていた実習であり、初めて救急現場を体験する必要不可欠な最も大切な実習の一つです。救急隊や救急救命士の方々の傷病者への献身的な救助、救命する姿から、将来の自己像を力強く真に想像する。救急現場活動から傷病者や家族、周囲の人々への接遇を学んで人として医療人として大きく成長する。学内で学んだ救急医学の知識を救急医療現場で再確認し、コミュニケーション能力を高める場でもあります。

救急救命士養成大学や専門学校において救急車同乗実習の中止が迫られ、実習中止と判断せざる得なかった養成機関ばかりの中で、当科では、教員の高い教育観点と学生における実習の必要性の真意を十分に説明し、今回は“万全な感染対策の教育”を学生に実施したことも強調し、全国100カ所近い消防本部・局に受入れ交渉を行いました。その結果、救急車同乗実習Ⅱについては短縮日程になりましたが、全員が例年通りの救急車同乗実習が実現できました。実習を受け入れてくださった消防機関の皆様には、厚く御礼申し上げます。特に今年度、このコロナ禍での実習が出来たこと、そしてそこから学んだ貴重な経験は、学生にとっては今後の自分の大きな心の糧になるに違いありません。各個人の発表は、個人での症例発表に留まらず、お互いに学生間で共有され、自分たちが体験出来なかった症例数の不足分を十分に補充でき、意義深いものになるだけでなく、我々教員も学生の経験から貴重な現状の救急現場活動の実態把握につながるため、大変有意義な時間を皆で共感できていると思っています。

今回の報告会に遠路はるばるご足労いただき貴重なご意見や学生への直接アドバイスをしていた救急救命士の方々にお礼を申し上げます。最後に今年後の救急車同乗実習が従来通り実施できたことに対して、中澤先生、小倉先生らに感謝を申し上げたいと思います。これからも有意義な同乗実習と質の高い発表会が継続していくことを願っています。



日体大救急医療学科の救急救命士教育（あらゆる分野で活躍できる救急救命士の養成）

## 実習の概要

日本体育大学保健医療学部救急医療学科は救急救命士養成課程として2014年に創設されました。当学科では「救急医療」「蘇生医療」「災害医療」を3本柱として、それぞれ国際的な立場で実践活動・指導できる救急救命士の育成をしています。

救急医療の現場に直結した実践的な学びで社会の即戦力になれるよう、救急現場を想定した実践的なシミュレーション訓練や、様々な環境での課外実習、海外から第一線で活躍する救急救命士を招いての講演など、最先端の知識や技術だけでなく人間性も学ぶことのできる数多くの学びの機会を展開しています。中でも「解剖実習」「病院実習」「救急車同乗実習」は、臨床の現場から崇高な医療人の精神を学ぶ貴重な機会となっています。

救急車同乗実習は、2年次の「救急車同乗実習Ⅰ」と3年次の「救急車同乗実習Ⅱ」で構成されています。消防機関の救急救命士養成課程に比較し、学生は圧倒的に臨床経験が少ないため、本学では早期に臨床実習を取り入れ、医療人として求められる高い倫理観と崇高な精神を徹底的に教育し、切迫した危機的状況下で重責を担える実践力を持った救急救命士を育成しています。

学習意欲向上を目的としたカリキュラムの改正			
-早期実習体験の必要性-		(2018年度入学生以降)	
1年次	2年次	3年次	4年次
公衆衛生学 解剖学 生理学 病理学 微生物学 スポーツ救急学 救急医学概論 救急処置総論 シミュレーション 救助救命 野外活動実習	内科学 薬理学 救急処置各論 病態症候学 外傷侵襲学 環境障害・中毒 シミュレーション 病院実習Ⅰ 救急車同乗実習Ⅰ 野外活動実習	外科学 災害医学 整形外科 脳外科学 救急搬送論 シミュレーション 病院実習Ⅱ 救急車同乗実習Ⅱ 救急医療総合演習 卒業研究	小児科学 産科女性診療学 神経・精神医学 放射線 シミュレーション 救急医療総合演習 卒業研究
救急救命士国家試験対策模試			就職活動支援

### 1. 2020年度「救急車同乗実習Ⅱ」の概要

3年次集中講義・必修・3単位 2020年度履修者数 63名

### 2. カリキュラム

#### (1) ガイダンス

実施日時：10月1日（木）3・4・5限（健志台キャンパス）

ガイダンスでは、実習要項に基づき、実習中の遵守事項について徹底しました。また、消防機関での実習に備えた準備として、消防の組織や任務について、消防機関の元幹部により、関係法令や公務員の遵守事項についての講義を行いました。

実習に必要な資器材を配布し、感染防止衣やマスク・ゴーグルの取扱いも含めた感染防止対策についての教育を実施しました。

#### (2) 学内臨地実習

実施日時：10月8日（木）～12月3日（木）（健志台キャンパス）

消防機関での救急車同乗実習に備え、救急活動の一連の流れを全履修学生が体験しました。キャンパス内の様々な場所を救急現場に状況設定し、119番通報から医療機関収容までの活動を、救急車両に乗務して行いました。また、救急救命処置のみならず、無線運用や活動記録票の記載、事後検証まで実施し、現役消防官の同乗指導も受けられました。

実習は1件ごとに検討会を行い、積極的な意見交換が行われました。活動や検討会はMicrosoft Teamsを用いて遠隔で中継し、離れた場所であっても見学や通話が可能な状態を維持し、感染防止対策を徹底しながらも一体感のある、本学ならではの実習スタイルが確立しました。



(3) 消防機関における救急車同乗実習及び症例検討会

実施期間：10月～3月中（実習先との調整による）

全国の消防機関に実習を依頼し、ご了承をいただいた14機関で1人1日の救急車同乗実習を実施しました。実習前の事前準備として、地域の概要をレポートにまとめ、教員の確認を行いました。実習後はデブリーフィングを目的とした症例検討会を行い、十分な心のケアを行いました。

【実習協力医療機関】

小田原市消防本部 逗子市消防本部 松戸市消防局 柏市消防局 我孫子市消防本部  
 印西地区消防組合消防本部 上尾市消防本部 筑西広域市町村圏事務組合消防本部  
 佐野市消防本部 高崎市等広域消防局 遠軽地区広域組合消防本部  
 糸魚川市消防本部 富山県東部消防組合消防本部 知多中部広域事務組合消防本部



(4) 全体研修

実施日時：2021年1月21日（木）1・2限（健志台キャンパス）

一般社団法人プロボノ消防志による講演とディスカッション

(5) 体験発表会

実施日時：2021年1月23日（土）8時30分から18時00分（健志台キャンパス）

救急車同乗実習で印象に残った症例、実習から学んだことについて、1人4分の発表と2分の質疑応答を実施しました。

日本体育大学  
保健医療学部 救急医療学科

**2020年度  
救急車同乗実習 体験発表会**

【日時】2021年1月23日（土）8:30～18:00  
 【場所】日本体育大学 横浜・健志台キャンパス  
 8号館8101教室  
 （神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221-1）

【内容】  
 履修学生が消防機関での実習をとおして得た経験をもとに、最も印象に残った事例の紹介や学び得た教訓について発表を行います。（1人あたり発表4分、質疑2分）

【参加申込方法】  
 本紙記載のQRコードよりご登録ください。  
 （参加される際には、感染症対策のためマスクの着用をお願いいたします）

【実習協力消防機関】～ご協力ありがとうございました～

神奈川県：小田原市消防本部	茨城県：筑西広域市町村圏事務組合消防本部
：逗子市消防本部	栃木県：佐野市消防本部
千葉県：松戸市消防局	群馬県：高崎市等広域消防局
：柏市消防局	北海道：遠軽地区広域組合消防本部
：我孫子市消防本部	新潟県：糸魚川市消防本部
：印西地区消防組合消防本部	富山県：富山県東部消防組合消防本部
埼玉県：上尾市消防本部	愛知県：知多中部広域事務組合消防本部

【本件問合せ】  
 救急医療学科 中澤 / 小倉  
 電話：045-507-7294 / 045-507-8538

本発表ポスター制作協力：小田原市消防本部（神奈川県）



## 感謝の言葉（履修学生より）

**安東 郁詔**

**小田原市消防本部 小田原消防署**

まず、このような状況下において実習を受け入れて下さったことを心からお礼申し上げます。大変ありがとうございました。私が今年度小田原消防さんにて実習を行う一人目ということで緊張していましたが、永井さんをはじめ、小澤隊長、船坂隊員、江川機関員など接する全ての方が気さくで非常に実習しやすい環境を構築して頂いたことや、バイタルの聴取など可能な限り実習が行えるように積極的に手助けして頂いたこと大変感謝しております。

実習を通じて大きく2つのことを学ぶことができました。それはストーリーを作成しないこととコミュニケーションを密に取ることです。くも膜下出血の出動の際、通報時からくも膜下出血を疑う症例でしたが、隊の皆さんは最後まで様々な可能性を考慮し活動されていたのが非常に印象的でした。また同様に病院連絡の際は事実を伝え憶測は話すべきではないなど現場でしか経験できないことを学ばせて頂きました。また、コミュニケーションに関しても隊の方々の人間性を感じることができ、家族に対し分かりやすく説明されていた姿は印象的でした。今後の私の進路はまだ定かではありませんが、小田原消防の方々と接することで感じられた人間味や仕事に対する姿勢はどの職業でも重要であり、私にとって非常に貴重な体験だったと確信しております。大変お世話になりました。

**川島 智哉**

**印西地区消防組合消防本部 西白井消防署**

この度は、新型コロナウイルスの感染が拡大している中で救急車同乗実習を受け入れてくださり、ありがとうございました。1日間という短い時間ではありましたが、たくさんの方を経験させていただき、多くのことを学ばせていただきました。

西白井消防署の方々がとても優しく接してくれて、人を救う仕事をしている人はカッコよく、憧れる存在でした。自分も西白井消防署の方々のように他人の気持ちに寄り添って人命救助ができるようになりたいと思いました。救急の仕事というのは、傷病者の命を救う尊い職業であるということを現場で感じました。また、傷病者や家族とコミュニケーションをとることの大切さを感じました。

救急のことだけではなく、社会のマナーや身だしなみについても教わり、社会人としての基本も教わりました。普段学校では経験できない

実際の現場での経験で、学ぶことが多く西白井消防署で経験したことを今後に活かしていきたいです。短い間ではありましたが、お世話になり、多くの経験をさせていただきました。救急車同乗実習を受け入れてくださり本当にありがとうございました。

**青木 奨**

**印西地区消防組合消防本部 西白井消防署**

印西地区消防本部の皆様。今回は救急車同乗実習を受け入れて下さりありがとうございました。まず実習を行い思ったことは職員の皆様のオンとオフの切り替えの早さです。出動ではない時は話しかけて下さり固いイメージが無く働きやすそうだと感じました。しかし出動の際は急に空気が変わりピリッとした空気になりました。普段から救命に関わるプロの凄さを感じました。

また白井市で行なっている「救急医療情報シート」にとっても興味を持ちました。この取り組みは救急活動を行う上で、迅速かつ円滑に行える重要な取り組みだと思います。おそらくこのような取り組みは全国では少ないです。もっと広げていけば救命率や搬送時間の削減に繋がります。私が消防士になれば必ず普及させていきたいと思いました。

一緒に同乗させて頂いた副隊長は落ち着いた表情や話し方は自分まで安心感を感じました。堀越さんはテキパキとした作業から無駄がありませんでした。鈴木さんは女性にしか与えられない安心感があり女性消防士のすごさ、重要を感じ救命活動において必要不可欠だと思いました。このようにそれぞれの特性を活かし市民を守っているのだなと感じました。

この実習を通して救急隊の3人も出動から帰ってきて撤収をしている救助隊の方々も全員カッコよく見えました。さらに消防士になりたいという気持ちが強くなった実習となりました。本当にありがとうございました。

**秋田 航季**

**松戸市消防局 八ヶ崎消防署**

松戸市消防局第二方面本部八ヶ崎消防署の皆様、今回の救急車同乗実習では大変お世話になりました。新型コロナウイルス感染症の拡大が継続し、救急車同乗実習生の受け入れが厳しい中、一日の救急車同乗実習を実施させていただく機会を頂くことができ、学ぶものが多くありました。ありがとうございました。

原付による交通外傷で傷病者が2名発生した事案の帰署後に、階級・役職も関係なく皆さん

で今回の発生した問題が二度と起こらないようにするにはどうしたらいいのかを話し合っている姿に感銘を受けました。私は救急救命士になるための勉強をしています、ほとんどが国家資格取得に必要な医学的な知識・技術や救急救命士として必要な接遇の在り方などを学ぶものです。消防組織の救急救命士として果たすべき責任についての理解が深くありませんでしたが、公務員である消防職員は、どんな状況でも最高の救急医療サービスを提供する責任と義務があることを実感しました。また、最高の救急医療サービスを提供するため現状に満足せず、問題点は早期に解決・改善することが必要であると皆様の姿から学びました。新型コロナウイルス感染症による救急業務への負担が増えていることも救急車同乗実習を通じて学びました。

今後も感染症との戦いが続くと思いますが、お身体にはお気をつけてください。

**天野 智仁**

**松戸市消防局 中央消防署**

この度は、この新型コロナウイルス感染症拡大が叫ばれる中、私たち日本体育大学の実習を受け入れてくださり、誠にありがとうございます。松戸市消防局の方々はお出場でせず署内で待機している際にも本当に皆様快く、救急隊の方のみならず、多くの方が色々なことを教えてくださいました。救急隊長の戸張さんを始めとする、実習当日の救急隊の方々にも本当に多くのことを教わりました。このコロナ禍での活動は色々なことに配慮をしながらの活動になると思いますが、発熱の有無や、患者様のご家族にそのような発熱の方がいないかなど、スムーズな確認の上、素晴らしい活動をされていました。

またお年を召されている方への対応や認知症を患っている方への対応からは多くのことを学び、患者様と真摯に向かい合う姿に感銘を受けました。

正直私は、進路について、消防に行くかどうか、まだ決まっていません。ですが、今回の実習で教えてくださったことは、どこで働いても活かせることばかりです。患者様と真摯に向かうことは、救急救命士のみならず、医療従事者全てに関係することであり、それは消防のみならずどこでも必要なスキルであると思います。対応の仕方を教科書で読むだけでなく、このように救急隊の先輩方の姿を見て学ぶことができたのはとても大きなことです。将来、もし私が今回の松戸市消防局の方々のように、実習生に教える立場になりましたら、過去に多く多くを教わったことを思い出し、たくさんの方を伝えたいと思います。それこそが今回の

実習の恩返しになると思っています。伝えてくださった医療を次に繋げる架け橋に私もなりたいと思いますのでこれからも勉学に励んでいきたいと思っています。この度は本当にありがとうございました。

**荒井 啓吾**

**小田原市消防本部 小田原消防署**

この度は新型コロナウイルスの感染拡大にも関わらず、救急医療学科の多数の学生を実習で引き受けてくださり本当に有難う御座います。1日という短い時間ではあったものの、特別な時間となりとても充実していました。当日の準備や説明を主に救急課長の佐宗さんのお世話となり、隊活動の見学につきましては隊長の副島さん、隊員の松本さん、機関員の酒匂川さんにはとても親切に色々教えてくださいました。現場だからこそ学べる知識や技術をご教授くださって本当に有難う御座いました。待機している間には、下田さんや救急隊ではない消防吏員の方達と共に先着隊の活動訓練に参加させていただきましたが、資機材に対する理解が深く感銘を受けました。

正直なところ、救急車同乗実習を迎えるにあたって新型コロナウイルス感染拡大の件や、初めての実習という事もあって緊張していましたが、実習に来た自分を温かく迎えてくださり緊張がほぐれて、実習に集中することが出来ました。自分もいつか救急救命士となり学生を受け入れる立場になった際は今回の実習で自分に対して親切にしてくださったように、同じことができるような立派な救急救命士を目指したいと思います。

また私は地元の横浜市消防局と東京消防庁の2つしか受験するつもりがありませんでしたが、今回の実習を踏まえて小田原市消防本部も選択肢に入れて現在考えています。温かく学びやすい環境で、自然豊かな小田原周辺地域にとっても魅力を感じました。そのように思わせてくださった小田原消防署の方々には大変感謝しています。今回学んだ内容を今後の糧にして、これからも学業に引き続き専念していきたいと思っています。この度は本当に有難う御座いました。

**石下 黎**

**印西地区消防組合消防本部 西白井消防署**

西白井消防署職員の皆様のおかげで実際の救急活動を体験することができました。私は88歳男性、胸痛、呼吸苦、冷汗ありというショックが疑われる傷病者の出動を同乗しました。現場到着までに資機材、搬送するであろう病院の確認、ショックが疑われることからヘリ要請の準備していました。学校で行う臨地実習では傷

患者と接触してから病院をどこにするか考えていたので実際の現場との違いに気づくことができました。また、PA 連携はとても素晴らしいと感じました。消防隊は救急隊が活動しやすいようにストレッチャーを準備したり、関係者への対応、玄関の靴を揃えるなど細かい配慮まで行っていました。救急隊はとても活動しやすかったと思います。一連の救急活動を見て、準備をしておくことがスムーズな活動に繋がると感じました。西白井消防署の方々はとても優しく、消防署へ帰宅する車内で丁寧にフィードバックを行っていただき、とても勉強になりました。コロナ禍という状況下でお忙しい中、実習をさせていただき大変ありがとうございました。

**石川 友哉**  
知多中部広域事務組合消防本部  
半田消防署 成岩出張所

現在コロナウイルスの影響により、世界は大変な状況になっています。日本でもコロナウイルスの影響で医療機関等が忙しく医療崩壊する勢いです。そんな危険な状況の中僕たちに実習をさせていただきすごくありがたく思っています。実習を行うことができなければ、現場の緊張感や、実際の傷病者に対する対応等を学ぶことができませんでした。実習を行えたことで、狭いスペースの中での搬送や、聞くべき情報、情報の適切な聞き方などを学べ、すごい経験になりました。

また、地元の消防署ということもあり方言などを使っており最初はどうかかなと感じていましたが、聴き慣れた言葉は傷病者の方を落ち着かせることができコミュニケーションが取りやすく土地ならではの特徴だと感じました。実習で学んだ救急隊の連携、活動の円滑などを将来働く際に生かされるようにしたいと思います。今回、実習を受け入れていただきありがとうございました。

**石場 健太**  
富山県東部消防組合消防本部 魚津消防署

魚津消防署の皆様、11月の救急車同乗実習ではお忙しい中、大変お世話になりました。新型コロナウイルス感染症拡大により多くの消防署が実習の受け入れを拒否している中、実習を受け入れてくださり富山県民の温かみを感じました。私は大学での実習の中で、救急車同乗実習が一番楽しみでした。その実習を生まれ育った故郷でできたことにとっても感謝しています。ありがとうございました。

実習では谷口隊長をはじめ多くの職員の方々がお面倒を見てくださり、さまざまな経験を

することができました。現場だけでなく JPTEC 訓練や施設見学、車両紹介、プロトコールの説明など丸一日時間を割いてくださり、充実した実習になりました。最初の出動では予令とともにすごいスピードで救急車に乗り込み、出動した時の気持ちは忘れません。

また、接遇の面では地元の言葉に温かみを感じ、方言が一つのコミュニケーションツールになっていると感じることができました。

慣れ親しんだ土地で実習をさせていただき、消防士になりたいという気持ちがより一層強くなりました。生まれ育った故郷に恩返しをできるように、今できることを精一杯取り組みたいと思います。

最後になりますが、今回の実習は一日でとても短く感じましたが、とても中身の濃いものになりました。本当にありがとうございました。

**一宮 大城**  
小田原市消防本部 小田原消防署

今回は、救急車での同乗実習を体験させていただきありがとうございました。同乗することで、普段シミュレーションの授業では味わうことのできない緊張感や責任感を感じることができました。その中で、隊長さんや隊員さん、機関員さんの落ち着いた雰囲気はどこか安心感を感じるところがありました。その優しい雰囲気が活動する上で、傷病者や家族などに安心感を与えているように感じました。救急活動では、家族や関係者、傷病者へのコミュニケーションの取り方、所見の聴取、IC など多くの接遇を学ぶことができました。救急隊の態度一つで、活動のスピードや病院選定につながり活動が変わってくると感じました。失敗を繰り返すことで学ぶことも大切ですが、真似して学びを得られることもあるので頑張りたいと思いました。

また、隊長さんとの「小田原市の MC や小田原市の災害の特徴について」意見を交わすことができ、有意義な時間になりました。出動件数は1件のみでしたが、1つの症例から得られる学びは多くありました。今回の実習の経験を糧に更なる知識の向上を目指して励んでまいります。この度は、お忙しい中私たちのためにお時間を割いていただきありがとうございました。お体にお気を付けてお過ごしください。

**岩崎 大翔**  
印西地区消防組合消防本部 西白井消防署

印西地区消防組合消防本部西白井消防署の皆様、ありがとうございました。実際の現場の活動の流れや傷病者の対応など多くのことを学ぶことが出来ました。

1つ目は、小児の対応です。カミソリでの切

創の傷病者は泣いていて暴れていました。このような傷病者に対しては、バイタルサインを無理に、全て聴取しなくて良いということを学びました。また、ヘルメットやゴーグルは、威圧感があるので隊長は、外していました。やはりこのような工夫は、実際の現場でしか経験することが出来ないのも、貴重な経験になりました。

2つ目は、交通事故の症例です。交通事故の症例だったため、警察と救急隊の活動でした。警察は、二次災害を防ぐために安全管理を意識して活動を行っていました。また、救急隊は、自転車の破損場所や破損状況、車の速度など事故の詳細を具体的に聴取していたのが印象的でした。

また、悲惨な状況でも冷静に活動することが大事だと実感しました。このような強い気持ちを持つには沢山の経験をすることが必要だと仰っていました。

私はこの救急車同乗実習を行い、消防職員になりたいという気持ちが強くなりました。私は、知識や技術、コミュニケーション能力など沢山のことが足りていないと実感しました。残り少ない大学生活では、少しでも多くの知識や技術を吸収して、立派な救急救命士になろうと思います。

新型コロナウイルス感染拡大の中にも関わらず、実習を受け入れてくださり本当にありがとうございました。

### **上野 颯太** **糸魚川市消防本部**

この度は新型コロナウイルス感染症拡大により大変お忙しい中、救急車同乗実習の機会を与えて頂きましてありがとうございました。短い期間でしたが、現場の緊迫感を肌で感じることができました。特にPA連携で出動を同乗させていただいた時、多くの隊員が限られた空間で素早い判断と行動する姿に驚かされました。また、消防署内の施設を見学で救急隊以外の消防職員の方々の業務を見ることができ、貴重な経験となりました。

今回の実習が私にとって得難い経験になっただけでなく、改めて救急救命士になりたいことや地域に貢献したいという気持ちがより一層強くなりました。この経験を活かし今後の励みにしていきたいと思っています。この度は本当にお世話になりました。ご指導頂きありがとうございました。

### **鶴飼 駿** **我孫子市消防本部 西消防署**

今年度、新型コロナウイルス感染症が拡大している中、学生の実習を引き受けることは様々

なりリスクが考えられたと思われます。その中、私たち日本体育大学の学生に救急車同乗実習という場を設けて頂きとても感謝しております。今回、私たちの実習期間は1日という限られた時間であり異例の年になりましたが、この未知な感染症が世界中で広がっている中での実習は、間違いなく例年の実習を超える貴重な経験になりました。

実習当日は朝の大交替、車両設備点検の見学から始まり、その後すぐに救急出動があり、計4回の同乗をさせて頂きました。我孫子消防本部西消防署では2台の救急車が運用され、私は両方の救急隊の活動を見学することができました。消防職員の方々が親切に対応してくださり、活動の一連の流れや現場でしか学べないことなど、それぞれの救急出動で沢山の学びがありました。また、救急現場の第一線で活躍される皆様の姿を近くで体感することができ、とても刺激を受けました。

消防署長の川村良治さんをはじめ、救急隊の佐久間隊長、佐藤隊長、指導して下さった我孫子市消防本部の方々には大変お世話になりました。今回の実習を通して、沢山の学びと課題を得ることができ、実習させて頂いた時間をとても有意義なものにすることができました。

我孫子市消防本部という素晴らしい組織で実習できたことを誇りに思い、今後精進していきたいと思っています。ありがとうございました。

### **大笹 晃嵩** **柏市消防局 東部消防署**

この度は、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、救急車同乗実習を受け入れてくださりありがとうございました。

同乗実習当日は3件の救急事案に出動することができました。軽症、中等症、重症と全て緊急度・重症度が違っており、活動の方針や時間の使い方について学ぶことができました。また、発生場所にあっても路上、自宅、職場と全て違っており、家族や通行人、会社の職員と言った様々な関係者に対する接遇なども学ぶことができました。出動の合間には救助隊の訓練や車両、消防署の見学をさせていただき、救急のことだけでなく、幅広く学習することができたと思います。お忙しい中、多くのことを学ばせていただき、本当にありがとうございました。

### **岡村 光介** **印西地区消防組合消防本部 西白井消防署**

今回は新型コロナウイルス感染拡大により、消防機関の方々多忙な業務をこなしていることが予想される中、私たちの実習を受け入れてくださり誠にありがとうございました。

私は将来、救急救命士として働くことを夢にこの学校に入学しました。その中でも1番楽しみにしていたのが救急車同乗実習のプログラムでした。それも、コロナの影響で行けないのではないかと残念な気持ちになっていたのですが西白井消防署の方々が沢山の学生を受け入れてくれたこともあり私たちは無事に実習に参加することができました。現場でしか味わえない緊迫感や普段のシミュレーションの授業では学ぶことのできない現役救急救命士の方々のスキルを肌で体感し十分に学ぶことができました。加えて、感染予防のために出動以外は別室待機という状況でしたが、救助隊の訓練を見学させていただけたことや防火服の着脱体験をさせていただけたことはとてもいい経験になり、より夢への期待が高まりました。また、無知な私に優しく丁寧にわかりやすくご教授してくださったことは決して忘れません。口だけでは命を救いたいと言っても行動が伴わなければ救えるはずの命も救えないのが事実です。そうならないためにもより一層勉学に力を注ぎたいと思います。本当にありがとうございました。

#### 我満 夕輝

##### 印西地区消防組合消防本部 西白井消防署

この度は新型コロナウイルス感染症拡大が猛威を奮う中、我々学生の知識・技術の向上のために実習を受け入れてくださり誠にありがとうございました。

私は今回の実習で、実際の現場の緊張感や活動の流れ、病院選定の具体的な根拠、傷病者や家族へのコミュニケーションの方法などを学ぶことを目的としておりました。

実際の出動は1回で、不搬送となってしまいました。しかしその一つの症例の中でも、家族へのインフォームドコンセントの重要性を学ぶことができました。通報内容は82歳の女性、鼻血が止まらないとの本人からの通報でした。現場に到着したときには本人が玄関先で救急車を待っており、そのまま自分の足で救急車に乗り込みました。傷病者接触時には鼻血は止まっており、バイタルサインも異常がないため搬送の必要がないと判断し、不搬送の旨を伝えておりました。その中で隊長さんが救急車の適正利用についてご本人に十分に説明しており、ご家族にも同意を得て不搬送となりました。

一般市民や傷病者への救急車の適正利用の普及と十分なインフォームドコンセントが大変重要だと学ぶことができました。

重ねてではありますが、このような社会情勢で実習を受け入れ難い中、実習生を受け入れてくださりありがとうございました。

#### 川島 大造

##### 我孫子市消防本部 西消防署

10月の実習でお世話になりました日本体育大学保健医療学部救急医療学科3年の川島大造です。

実習では大変お世話になりました。10月の大変貴重な実習でとても刺激を受け救急医療の勉強に励んでいます。この実習を通していい救急救命士になれるように頑張ります。救急隊の方々の実際の隊活動を見させていただき現場の緊張感も経験させていただきました。救急隊の活動以外にも五十嵐さんに我孫子市消防本部の内部を紹介していただいたり、防火服を実際に着せていただいたりもしました。小川さんにも飲み物を買ってもらったりしてもらい、私にとってとても有意義な時間となりました。私は運良く社会科見学も見学させていただきました。皆さんの受け答えを見ていてとても一言一言に重みを感じさせていただきました。私も小学生に混じって消防署を一から学ばさせていただきました。皆さんの姿を見ていてより一層消防に勤務したい気持ちが増しました。その気持ちを胸に今公務員試験も並行して勉強しています。我孫子市消防の方の暖かさを受け我孫子市消防を受験したいと考えています。合格した際にはご報告させていただきます。

本当にありがとうございました。

#### カンカーニゲ サチン

##### 小田原市消防本部 小田原消防署

今回実習を受け入れてくださった小田原消防署の皆様本当にありがとうございました。

最初ものすごく緊張して、コミュニケーションを取るのには得意な方ですが不安でしたが、すごく親切に接して下さったおかげですぐになれることが出来ました。話題をふっていただいたり、自分の将来の夢を話すと指令センターみたら？って勧めていただき、指令センターをほんとに長い時間の間しっかり見学することも出来ましたし、通常時と緊急時の対応の仕方など、学ぶことが出来ました。

また、運転技術の向上のために近くの教習所を実際に貸し切って、先輩の機関員の指示に従い、どのようにしたら安全かつ迅速に現場にたどり着くことができるなど、大学の学習では学べない経験をたくさんすることが出来ました。今回の経験をしっかりこれからの勉学にいかせられるように頑張ります。本当にありがとうございました。

#### 小玉 真史

##### 印西地区消防組合消防本部 西白井消防署

コロナ禍のなか実習を受け入れてくださり

ありがとうございました。

実習中1度だけ現場に連れていってもらいましたが、その際に傷病者の状態やコロナ禍の現状で病院選定が難しいことや最初に何を病院側に伝えるのかを学ぶことができました。

GCSが曖昧な場合どうするのか、関係者とのコミュニケーションはどのようにするのか等の質問にも丁寧に説明していただき理解を深めることができました。

高齢者の方には予め既往歴、服用薬等を記載して貰うことで情報収集を早める工夫がなされていることはとても勉強になりました。地域の方たちとの協力で多くの命が救えると学ぶことができました。

関係者とのコミュニケーションで落ち着いて話すことで相手も焦って取り乱すことがなくなることを見学することができました。シミュレーションの講義の際に今回の実習で学んだことを活かしてコミュニケーション能力を上げていき、関係者、家族の方には不安な思いをさせず、傷病者の命を1つでも多く救える医療人になりたいと感じました。

コロナ禍で多くが見学ができない中、できるだけ学べるように施設の説明だけでなく、放水作業の見学等の機会を作ってください感謝しています。短い期間でしたが本当にありがとうございました。

## 小林 健斗

### 上尾市消防本部 東消防署

この度は新型コロナウイルス感染拡大でお忙しい中、上尾市消防本部東消防署の皆様には実習を受け入れて下さり感謝申し上げます。今回の実習は私にとって大変貴重な経験になりました。学校で行う実習と現場での活動は緊張感もとても違い普段の想像力の甘さを痛感しました。しかし今回その緊張感を体感することが出来たので今後の活動に生かしていきたいと思います。

また現場での活動の学びだけでなく、救急車内の説明などもしていただきました。救急車内の動態記録の存在を自分は知りませんでした。時間管理は現場ではとても大切な事項と考えているので、救命士が特定行為ができるよう進化しているように救急車自体も進化していることがわかりました。

そして一番気になっていた現場での傷病者とのコミュニケーションも見学させていただきました。傷病者の状態に合わせて適切なコミュニケーション技法を使っていてこのようなコミュニケーションの取り方もあるのかと学ぶべき接遇をたくさん見させていただきました。

私は将来傷病者を安心させてあげられる救命士になりたいと思っています。その目標において救急隊の皆様の対応には感銘を受けました。

今回の経験を無駄にはせず、必ず将来に生かし社会に貢献できる救命士になりたいと思います。本当にありがとうございました。

## 佐藤 功樹

### 我孫子市消防本部 西消防署

この度は新型コロナウイルスによる感染拡大の状況下にも関わらず、実習を受け入れてくださった大木隊長、武者小路隊長をはじめ、我孫子市消防本部の皆様には、心より感謝申し上げます。

今回の実習は、自分にとって将来像が大きく変わる実習だったと感じております。理由としては、現役救助隊員の方々からの救助隊へのお誘いがあったからです。自分は病院救命士になりたいと決めて同乗実習に臨んだのですが、帰宅時に「待っている人間ではなく、先に現場でいなければならない人間」と気づきました。救急救命士の資格を持った救助隊員になれば、救出に時間がかかる現場などでも、自分が傷病者の第一救助者として生命をつなぐことができるのではないかと、危険との隣り合わせの現場ではありますが、自分への挑戦する心に火が着きました。また、朝の出動訓練を見学させていただいて、覚知から出動準備時の着替えるスピードや車両に勢いよく乗り込む姿勢、現場に着くと同時に一つの円を作り、隊の中での情報共有や活動方針を決めている場面を拝見させていただいて、「自分もこの中に入り、仲間と要救助者を1人でも多く助けたい」という心が持てるようになった時間だったと思います。

短い時間ではありましたが、我孫子市消防本部の皆様との時間はまた必ず来ると信じ、今後の糧として勉学に活かしていきます。5年以内に我孫子市消防本部に戻ります。本当にありがとうございました。

## 佐藤 陸

### 小田原市消防本部 小田原消防署

この度新型コロナウイルスの猛威が世間を騒がれる中、救急車同乗実習に受け入れ有難う御座いました。この実習からは様々なことを学ばせていただきました。

小田原市消防本部では初めに自分たちで用意した実習着ではなく、活動服をお借りして同乗実習に臨むことができ、歓迎されていると感じました。活動服に着替えた時に署内の案内を軽く受け救急車内、資機材の説明をしていただきありがとうございました。

また今回の救急車同乗実習を受けて印象的に思ったのは、救急員の方が統括を行っていたように感じました。恐らく、次世代の救急隊の教育を行っているのだと思いました。

そのほかに小田原市の救急では湘南メディカルコントロールに基づくものでした。特徴は存じ上げておりませんが、3点の心電図の貼る位置が決められていたことが印象的でした。

また、小田原市消防本部がかなり広域で、海、山、高速道路が存在するためドクターカーの運用をしていたりととても印象的でした。

最後に、世間がこのような情勢の中、今回救急車内の限られたスペースを使っていただき、実習に協力いただきましたこと深く御礼申し上げます。自身の今後に役立てられるように精進していけたらと思いました。

### 澁澤 良亮

#### 小田原市消防本部 小田原消防署

今回は新型コロナウイルス感染拡大により、消防機関をはじめ医療機関の方々が多忙な業務の中、私たちの実習を受け入れていただき誠に感謝申し上げます。

今回の実習を通して、接遇の仕方によっては円滑に活動ができることを肌で感じ、改めて接遇が重要だと思いました。現場での状況や言葉遣いによる信頼関係の構築の方法を体験することができました。時に些細な会話・コミュニケーションが重要な情報になり得ることもありました。大学の講義では、手技や知識を学んできました。このような病態にはこのような対応・処置を行う。などの形式に沿った活動をしていました。テキストに載っているようなバイタルや所見を集められる症例は少ないと感じました。大学では学び感じることはできない現場の緊張感や空気感を味わうことができました。自分の処置や観察で一杯一杯になってしまう自分の半人前さを痛感することができたことは、自分自身の成長の糧になると思います。

今回の実習で体験できたことを生かし、知識や技術はだけでなく、傷病者や家族の痛みや苦悩に寄り添い安心を与えられる活動をしたいと思います。そう思えるような体験ができた小田原消防署の皆様改めて感謝を申し上げて、感謝の言葉とします。本当にありがとうございました。

### 島田 昂治

#### 小田原市消防本部 小田原消防署

この度、新型コロナ感染が広がる中、実習を引き受けていただきありがとうございます。一人での実習を行うという、緊張があったので

すが、小田原消防署の方々は、とても気さくに話しかけてくれた事や、挨拶をした際に皆さん元気に挨拶を返していただき、緊張感や不安がなくなりました。また、挨拶という基本的な事なんです、消防士の方々の挨拶は、とてもカッコよく見えました。

次に、実習内では、3人の救急救命士の方々にお世話になりました。救急指令が流れてからの救急救命士さん達の切り替えの速さ、出場までの時間がとても早い事にとっても驚きました。また、傷病者を病院までに搬送するまで救命士の方々は、気を抜かず対応している姿を見学することができました。現場での活動では、3人の連携が取れており、スムーズな搬送であったり、かなりの経験を経験しているのがわかりました。傷病者やご家族への接遇の仕方を学ぶことができました。そして、救急の現場で、最前線で活躍されている救急救命士を間近で見ることが出来たことが、とてもいい経験になりました。

今回、1日ではありましたが、小田原消防署に勤めている消防士の方々、救急救命士の方々の姿を見て、私自身将来、小田原消防署の人達のような救急救命士になりたいと、強く思うようになりました。また、救命士として多くの人を救っていけるよう、今回の経験を活かし、勉学に励んでいきます。

この度は、お忙しい中、ありがとうございました。

### 志水 雅空

#### 小田原市消防本部 小田原消防署

今回は新型コロナウイルス感染症が拡大している中で救急車同乗実習という形で受け入れをしていただきありがとうございます。

私は普段、外からしか救急車を見ることしかなかったのですが、実際救急車に同乗し現場まで出場するなど、普段では経験することができないことをたくさん経験させていただきありがとうございました。

実際に消防士の方々と同じ服を着させていただき鏡越しの自分を見た時にとってもワクワクしました。改めて将来この服を着て市民の方々の役に立ちたいと思いました。

救急車に乗って現場へ行き、病院に搬送するなど自分の中ではとても緊張していましたが、救急隊の方々が親切で優しく声をかけていただき緊張が溶けて真剣に学ぶことができました。実際には3件の症例に関わらせていただき、傷病者一人一人に対する症例で小澤さんを隊長とするみなさんが傷病者に対して親切な言葉遣いで接遇をしているのをみてとても勉強になりました。

これから普段の大学の実習の隊活動で真似をして生かすことができることだと思うのでとても勉強になりました。帰署をして傷病者の疾患などを丁寧に教えていただき感謝しています。将来小田原消防の皆さんみたいに親切で優しい消防士にならなようにこれからも今まで以上に勉強に励みたいと思います。

## 鈴木 駿介

### 小田原市消防本部 小田原消防署

小田原市消防本部小田原消防署の皆様、救急車同乗実習を行わせていただきありがとうございました。午前中は救急車の要請がなかったので資機材の点検などを一緒に行ってくれ教えてもらいました。救急車の中では消防の事を話してくださったり自分の話を聞いてくれたり人生相談にも乗っていただいて、話してとても自分のためになり楽しくリラックスできました。そのおかげで一日の実習をリラックスして楽しく行えたのだと思います。

指令管制センターも見学させていただき老人ホームの避難訓練の練習の通報を見させてもらいどのように通報指令を受けているか細かく説明をしてもらって指令管制員にとっても興味が湧きました。またハイテクな情報共有システムも見せていただきました。とても現代的でこのシステムがあれば活動を迅速にスムーズに行う事ができるな、とても良いシステムであると感じました。

午後は2件実際の救急要請に同乗させて頂いた現場で活動を行わせてもらいとてもいい経験ができました。2件目の通報が来たのが16時過ぎで実習が終わるギリギリの時間であったにも関わらず『帰ってくる時間実習の時間過ぎちゃうけど行くか』と言ってくださって実習時間以上実習を行わせてもらいとても嬉しく思いました。飲み物などを奢っていただいたり良くしてくださって嬉しかったです。

自分が消防士になって逆の立場になった時に実習生が来たら今回してもらった事をしてあげられるようになりたいです。ありがとうございました。

## 袖山 涼寿

### 筑西広域市町村圏事務組合消防本部

この度は、コロナ禍という大変な状況の中で実習を受け入れてくれた事に感謝申し上げます。現在の状況ではどのような対応をしているのか等は、この時期でしか経験する事が出来ない事なので、勉強になりました。

コロナウイルスの影響で、実際に救急自動車に同乗し、現場に向かうことは出来ませんでした。救急自動車の資機材の入れ替え・救急救

命士とのシミュレーション訓練等、様々な事を実習時間内で行わせて頂き1日という短い期間でしたが、実際に勤務している気持ちになりました。

私の地元でもある茨城県筑西市で実習を出来た事は非常に良い体験になりました。これまでは地元とは言え、救急救命士の目線で地域の特徴等を捉えたことが無かった為勉強に取り組んでいくべきだと感じました。その他に、救急救命士とはどのような職業なのか、自分の中ではありますがどう言った気持ちで取り組んでいくべきなのかを理解出来たのではないかと感じております。

今回の実習を通して、私のこの先の人生像も掴めたのでは無いかと思っております。救急自動車同乗実習での経験を無駄にすること無く、今後、残り少ない学校生活に全力で取り組んでいきます。先程も述べた通り、1日という短い期間でしたが、お世話になりました。ありがとうございました。

## 高橋 健

### 上尾市消防本部 東消防署

上尾市消防本部東消防署の職員の皆様、新型コロナウイルス感染症が拡大しており実習受け入れが難しい中、私たち日本体育大学の学生を受け入れてくださり誠にありがとうございました。一日という短い期間でしたが、私にとってとても内容の濃い一日でありました。実習が始まると、角谷隊長は上尾市消防本部のウィンドブレイカーを貸してくださり、私を仲間に入れてくれたのだと感じとても嬉しかったです。また、署内を周らせて頂いた際は通信指令室と救助隊の訓練を見学させて頂きました。実際に職員の方々が勤務をしている姿を見てとても刺激を受けました。私も職員の方々のように市民の安全を守るための仕事、訓練をしたいと強く感じました。

救急車同乗実習中に角谷隊長に頂いた「傷病者を家族だと想定し、自身の家族として求められる活動を行う」という言葉にとっても感銘を受けました。これは、処置以前に救急救命士を目指す私にとって必要なことであると考えます。活動の中でも、実際の傷病者への接遇からそのような活動の必要性という事を感じることができました。

今後の学内実習では、「傷病者を家族だと想定して」という意識をもって臨み、市民に信頼されるような救急救命士を目指します。この先も、新型コロナウイルスとの闘いが続くことが予想されます。難しい中ではありますが、来年度も日本体育大学の後輩へご指導頂けたらありがたく存じます。

高山 航

高崎市等広域消防局 中央消防署

高崎市等広域消防局の方々、新型コロナウイルス流行中にも関わらず救急車同乗実習を受け入れてくださりありがとうございました。実習当日には、2件の救急出動に同乗させていただきました。救急隊の円滑な活動や傷病者に対するコミュニケーションを見学してとても勉強になりました。瞬時にショックの判断をすることや高齢の傷病者とのコミュニケーションには、キーパーソンから情報を取るなど実際の救急現場でないとは分からない事が多くありました。

救急出動以外にも、群馬県の救急医療体制から高崎市等広域消防局の救急救命士について細かく教えて頂きました。また、隊活動の訓練では群馬県の強みであるドクターヘリやドクターカーの要請のタイミングを常に考えていて、病院が遠い地方ならではの難しさを感じました。その他にも、令和4年の救急隊シンポジウムが中核都市で初めて開催する事を聞き、研究活動にも盛んな消防でも働きたいと強く思いました。

最後に、高崎市等広域消防局の課長補佐の甘田様をはじめとする、職員の方々大変お世話になりました。また、当日同乗させて頂いた救急隊長の佐藤様をはじめとする、救急隊の方々たくさんのお話を教えて頂きありがとうございました。この実習で学んだ事を今後の糧にして、学生生活やその後に活かしていきたいです。

田中 遥也

知多中部広域事務組合消防本部

半田消防署 北部出張所

この度は私たち日本体育大学の学生を救急車同乗実習に受け入れてくださりありがとうございました。私はこの実習で、病院前で働く救急救命士や救急隊員・消防官の役割、活動の実際を学び、医療機関内の救急救命士との違いを知ることができ、今後の私が目指す救急救命士像を考えることができました。また、出身地で実習させていただけたことで、地元の救急医療体制を理解することができました。北部出張所にお世話になって、朝にミニ訓練を取り入れて技術向上を図られていたことや、傷病者を第一に考えて処置・搬送をするお話がとても印象に残っています。そして、愛知県プロトコルに則ったCPA傷病者に対する活動訓練は衝撃的で、私も将来、同じこと、そして見せていただいたこと以上の活動を愛知県でできるように頑張っていこうと思いました。

今後の進路決定の参考になることも多く、親身になってお話しいただいたことはとても心

に残っています。

私が将来消防官となって現場に出ることができるようになったら、皆様のような活動ができるように今後の学生生活で知識・技術を向上させていきます。自分の意識の持ちようでも実習の価値が変わることも教えていただいたので、一つ一つを大切に励みます。

最後になりましたが、山崎様、武藤様、小金澤様、堀様をはじめ北部出張所の皆様、実習のために調整いただいた実習担当者様、本当にありがとうございました。

遠山 拓朗

松戸市消防局 中央消防署

新型コロナウイルスが流行している中で実習をさせていただきありがとうございました。実習ではとても緊張した私を快く受け入れてくれて、救急車内で、資機材の確認を細かく説明していただいたり、LUCASの使い方を教えてくださいました。何かから何まで大変お世話になりました。

そして、実際の現場の隊活動を見ることができ、緊迫した中でのICなどの家族対応や、急変時の対応の速さ、隊活動のチームワークなどを学ぶことができて良かったです。症例でも1時間前から胸が痛いという指令でST上昇が見られ、車内収容時CPAとなり、1回目のショックでROSCをするというとても貴重な経験をすることができました。この症例でも意識レベル低下から、ROSCするまでの時間はとても早く、急変時の対応が素晴らしかったですし、私自身も急変時に素早く対応できるようにしっかりと学校で練習したいと思います。

将来は松戸市消防局の救急隊として働きたいと思っており、これからしっかりと勉強し、皆さんと一緒にお仕事ができるように頑張ります。ありがとうございました。

長岡 春樹

小田原市消防本部 小田原消防署

新型コロナウイルス感染症が拡大し、医療現場も逼迫している状況が多い中、私達を実習生として快く受け入れて下さり本当にありがとうございました。

私は救急車同乗実習を1年生の時にも経験しました。しかしその時は1件も出場することなく終わったので、救急隊の方々の現場活動を間近で見ることが出来て大変勉強になりました。実習当日、私はとても緊張していました。また、朝消防署に到着して救急隊の皆さんにちゃんと挨拶ができていない状態で1回目の出動指令がかかってしまったので、私は余計に緊張していました。しかし、小田原消防署の皆さんはと

でも温かく接してくださり、現場でもバイタル測定や身体所見を取らせてくださいました。症例としては軽傷でも、実際の傷病者を観察したのは初めてだったため本当に緊張したと同時に、大変勉強になりました。

また、小田原消防の現場活動プロトコールも見せていただき、心電図の貼る位置によってV3相当誘導という見方があること等の、実際に消防機関に入らなければ分からない知識を得ることが出来ました。

今回の実習で私は消防士になりたいと改めて再確認することが出来ました。実習をさせていただいて、救急隊がどれだけ素晴らしい仕事なのか、救急隊になるまでに消防士として1人前になる必要があり、それがどれだけ大変なことなのかをよく学ぶことが出来たと思います。今回の実習での貴重な経験を活かし、立派な救急救命士になれるよう努力していきたいです。

**永田 溪太**

**小田原市消防本部 小田原消防署**

まず初めに今回はこのような状況の中、私達の実習を受け入れていただきまして、誠にありがとうございます。本来であれば原則、見学に留まるところを今回はたくさんの経験をさせていただきました。また、今回は実際に小田原消防の方々を着ている活動服を着て実習を行う事ができました。他の実習先では中々体験できないとても貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございます。救急車内に乗り活動をさせていただいたことはもちろんですが、職員の方がとても優しく接してくれて消防署内の様々な事も知る事ができました。

私自身、とても印象に残った症例から学んだ事があります。収容依頼を7、8件も行い、車内収容してから現場出発に約1時間かかった症例を体験させていただきました。その中で学んだ事があります。約1時間の間の隊長、隊員、機関員の傷病者、関係者対応がとても親切で常に傷病者の事を考えているといった事を学ばせていただきました。技術や知識だけを身につけるだけでなく、常に傷病者などの事を考えられるような立派な救急隊に私もなります。この貴重な体験を受けて、私自身より一層救急救命士の資格を取り、救急隊として活躍したいという気持ちが本当に高まりました。立派な救急隊になれるように、今後もしっかりと勉学に取り組みたいと思います。今回は誠にありがとうございました。

**中村 樹**

**小田原市消防本部 小田原消防署**

まず、このような状況下において実習を受け

入れて下さったことを心からお礼申し上げます。大変ありがとうございました。私が今年度小田原消防で実習を行うにあたってとても緊張しましたが、永井さんをはじめ、小澤隊長、船坂隊員、江川機関員など接する全ての方が気さくで非常に実習しやすい環境を作って頂いたことや、バイタルの聴取など可能な限り実習が行えるように積極的に手助けして頂いたこと大変感謝しております。私が、出動したなかで交通事故の症例がありました。既に警察の方達が交通整理を行う中対活動を行うところを見学させていただきました。実際の現場で交通事故の症例を見ることは初めてだったので交通整理や警察との連携、事故を受けた傷病者に対する接し方やバイタルの取り方などをまじかで見ることができてとてもいい経験になりました。今後の私の進路はまだ定かではありませんが、小田原消防の方々と接することで感じられた人間味や仕事に対する姿勢はどの職業でも重要であり、私にとって非常に貴重な体験だったと確信しております。大変お世話になりました。

**野村 光史郎**

**遠軽地区広域組合消防本部**

新型コロナウイルス感染拡大の大変な環境の中、私が希望した遠軽消防で実習させていただきありがとうございます。

今回の実習では、消防業務の理解、通信指令室の見学といった普段、身をもって経験することのできない経験をすることができました。経験できたのも、消防職員の皆様の理解があったの事だと思えます。

様々な事を体験させて頂いた実習の中で印象に残っている事があります。それは、資機材を大切にするという事です。何気なく使っている、マスクやベスト、手袋でもお金がかかっている、それを注文する人がいて、届くまでには時間がかかる。といった当たり前の事ではあったのですが、改めて、そこまで考えられる人間でありたいと思いました。そして、感謝の心を持つことが大事だと思いました。

もう一つは、遠軽消防の職員の方々の意識の高さや優しさを感じました。私も立派な消防官になり、今度は私が教える立場になりたいと思いました。今回、経験させて頂いた事を、今後の人生の糧にして、日々精進していきます。本当にありがとうございました。

**平山 潤弥**

**小田原市消防本部 小田原消防署**

このたびは世界中がコロナウイルスで大変な中、小田原市消防本部で実習をさせて頂きま

してありがとうございました。

今まで病院実習でしか現場の経験がなく病院以前ということもあり初めての経験でとまどいも多く、学ぶことがたくさんあり、実習の時間があつというまに過ぎていきました。

私が実習させていただいた日は出動が1件ということもあり平和な1日でした。出動が無いからといって私を放置することもなく小澤さんは指令センターの見学や資機材の説明までしていただき本当にありがとうございました。指令センターの見学ではデモンストレーションまで行っていただき、文面でしか拝見していなかったものだったのでとても良い経験となりました。

救急救命士の皆様だけではなく消防士の皆様も暖かく迎えていただき、消防の講義などを一緒に受けさせて頂くなどの普段はできない貴重な体験をさせていただきました。皆様、要請がかかった時の集中力が凄まじく、いつ出動要請が来るか分からない常に緊張した現場だと感じました。病院では収容依頼から来院まで、準備の時間が少しありますがそこが消防との違いだと感じました。現場に行くまで詳しい概要が分からないということは常に最悪なケースを想定することが大切だということを学びました。今回の経験を活かして勉学に励み、救急救命士になりたいと感じました。ありがとうございました。

**深沢 竜大**

**上尾市消防本部 東消防署**

この度は、新型コロナウイルス感染拡大の中、救急車同乗実習を受け入れていただき、ありがとうございました。今回の実習では、ポンプ隊との連携や、救急隊内でのコミュニケーション、傷病者家族の対応など、多くの事を学ぶことが出来ました。実習では、4件の出場をすることが出来ました。そのうち2件が外国人傷病者ということで、外国人も多くなっているんだと実感しました。1件目の出場では、団地の4階くらいが現場であり、階段も細くて通りづらいという状況で、とてもスムーズに搬送していたことに驚きました。大学の实技でも、階段を搬送することがありましたが、ある程度広い階段でも、搬送することが難しかったです。それにもかかわらず、ポンプ隊と連携をとり、上手く運んでいたのが、現場で活躍している方々は凄いなと思いました。また、傷病者も脳梗塞、右の共同偏視など、貴重な症例を経験出来ました。

この実習で学んだことを今後の学習に活かし、将来は上尾市消防本部の方々のような素晴らしい救命士を目指したいと思います。実習を受け入れていただき、ありがとうございました。

**古橋 慶一**

**印西地区消防組合消防本部 西白井消防署**

今年度、新型コロナウイルスが蔓延し、様々なリスクが存在する中、私たち保健医療学部救急医療学科3年の救急車同乗実習を受け入れてくださり、有難うございました。私は実習日当日、とても緊張感を持って消防署のインターホンを押しました。消防署に入り、当日の救急隊隊長の花嶋様に準備のことや施設見学をさせて頂きました。残念ながら、私は救急出動件数0件ではありましたが、午後の業務に伴い午前中では、車両誘導の訓練を間近で見ることが出来てとても良かったです。午後の業務では地理調査のため、救急車に同乗できる機会が出来、とても嬉しかったです。地理調査のために救急車に同乗している際、救急隊の方々から消防に入った理由、救急救命士になった理由などを聴取することが出来、私が将来に悩んでいることを真剣に聞いてくださりとても嬉しかったです。帰署した後に消防の職員の方と約1時間会話をしました。私の出身高校や地元の話で盛り上がりとても楽しかったです。その方は、私が将来に悩んでいることに対して真剣に聞いてくださり、消防の良いところ、悪いところ、消防士の休日などを教えてくださりとても嬉しかったです。現在、私の進路は一般企業ではありますが消防業務に関わることが出来たことは人生の経験として未来につながっていくと思います。消防業務という貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

**前田 周**

**小田原市消防本部 小田原消防署**

まず、このような時期に実習を受け入れてくださった小田原市消防本部をはじめ、救急隊の皆様には大変お世話になりました。1日でしたが、消防について、救急隊についてとても学ぶことが多く、充実しておりました。実習に行かせていただいた日は、朝から楽しみだったことと緊張が混ざり合っており、30分も早く到着してしまいました。到着した時に職員の方がとても丁寧に対応して下さったおかげで少しづつ緊張がほぐれていきました。消防の初めの当直の方と交代する際の朝礼を見たのですがとてもハキハキ、キビキビ動いており挨拶をした際も気持ちよい挨拶を返していただいたのでさすが消防官だなと感銘を受けました。私も普段から返事などは真似できるのでハキハキ喋る練習をしたいと思いました。1件目の症例に同乗させていただいた際に救急隊の方が自己紹介や話を持ち掛けてくれ、緊張がなくなりました。また、バイタルなどをとる仕事を任せるからと言われ、救急車に積まれている資機材を

説明してくれたり、実際にとってみてと言われやらせていただき、救急車に積まれている資機材は大学の物と違って、色々な種類の資機材があるということ学ばせていただきました。また、2件目と3件目の症例の際、隊長や隊員の傷病者との接遇の面に着目させていただいたのですが、傷病者の目をみて、聞き取りやすい声、言葉でインフォームドコンセントをとっており、落ち着かせることができている、かっこいいと感じました。私は、ICを取ることが苦手なので見習いたいと思いました。また、隊長の隊員間への指示出しの部分でも次々にやることを指示していて、どのような指示出しをすればよいか学ぶことができました。将来、私が救急隊員になった際はこの経験を踏まえて頑張りたいです。

**松山 翔平**

**小田原市消防本部 小田原消防署**

コロナ禍という特殊な状況下で実習生として受け入れていただきありがとうございます。またご多忙中にもかかわらず丁寧なご指導心より感謝申し上げます。実習中では5件の救急要請があり、とても貴重な経験ができたと思います。中でも特に印象に残っているのが救急要請は、不搬送になった症例です。ヘルパーさんが声をかけても反応がない為救急要請をし実際に現場に行くと警察の方が先に着いており中に案内されました傷病者の方に接触すると社会死状態で脈、呼吸、心電図、瞳孔、体温をとらせていただきました。その後の警察との引き継ぎや、出動からPA連携で道の狭い道路であった為、対向車の誘導などを実際に見ることができ病院実習では見られない貴重な症例を経験することができました。

今後は、救急車同乗実習での貴重な経験を活かして残りの学校生活での勉強の目標にし卒業後は小田原消防署の救急救命士の方々のような素敵な救急救命士になれるように精進していきたいと思っています。

**皆吉 泰誓**

**印西地区消防組合消防本部 西白井消防署**

今回は、新型コロナウイルスが流行している中、救急車同乗実習をさせていただき感謝申し上げます。

私は、今回の、実習で様々なことを身につけ、新たな発見を得ることができました。一つ目は、覚知から出動までのスピードがとても早く、人命を救う為に一分一秒も無駄にしないという姿勢に感銘を受けました。自分自身も、出動までに素早く動くということを意識していましたが、救急隊の方々はその以上に早くとても驚

きました。自分自身も、消防署で働くことになった際には、一分一秒でも早く出動できるように頑張りたいなと思いました。

二つ目は、現場に到着してから現場離脱が想像以上に早く、素晴らしい隊活動だなと思いました。自分自身も、大学での講義や実習では、現場離脱を早期に行う事を目標にしていますが、やはりプロの救急隊の方々は、やるべき事もしっかりと行い、適切な医療機関に搬送しており、無駄のない動きや、判断にとっても尊敬しました。また、隊員一人一人の活動内容が分担されており無駄のない動きをしていて学べる事が多々ありました。

以上の事を踏まえて、今回、お世話になりました印西地区消防組合消防本部西白井消防署の方々のような救急隊員になれるように努力したいと思います。自分自身とても貴重な経験になりました。ありがとうございました。

**望月 侑大**

**小田原市消防本部 小田原消防署**

新型コロナウイルス感染症拡大の中、救急車同乗実習を受け入れていただきありがとうございます。小澤さん、船坂さん、江口さんにはとても優しくしてもらい、資器材などを説明して頂く時も丁寧に教えていただきましてありがとうございました。先生方にそれぞれの隊によって資器材の置く位置の工夫があったりして面白いと聞いていました。実際に小田原救急隊の配置を見せていただいた時になんでこの資器材がここにあるのか、などの細かい目的があつての位置でした。自分達の隊活練習の時にその時得た工夫を実践してみようと思いました。移動中や活動中にも説明を下さりとでも助かりました。小澤さんが隊長で出た骨折の症例では高齢者に対するコミュニケーションについて学べました。声の大きさやテンポなど教科書に載っていても実際にはどれくらいなのか直に感じる事が出来ました。練習でやっている隊活では基本的に早期搬送を心掛けてやっていますが、緊急度に合わせてしっかりと情報収集をして万全で向かうというやり方も学べました。ひとつのことだけに囚われないで広い視野で物事を見ていくことが大事だと改めて気づけました。今回の実習で得た経験を糧に救急救命士として活躍できるように精進していきたいと思っています。ありがとうございました。

**山下 貴之**

**我孫子市消防本部 西消防署**

昨年から続く、新型コロナウイルス感染症拡大の中、私たちの実習を受け入れて下さり、本

当に有難う御座いました。感染症と最前線で戦う皆様の姿はとてたくましく、私たち一般市民の誇りです。実際に救急車に乗らせていただき、救急隊の活動や傷病者とのコミュニケーションの取り方、何をやるにしてもとても勉強になりました。とくに、隊員間でコミュニケーションは、とても大切だということを改めて実感しました。出場がないときは、一緒に隊活動をしていただき、様々なアドバイスをいただきました。現役で働いている、隊員の方々と、一緒に隊活動をするのは、初めてで緊張したが真剣にやりつつも和やかな雰囲気です。やって下さったので、あまり固くなることなく活動が出来た。フィードバックでは、生理学的・解剖学的な観点からもしっかりと説明していただき、とても勉強になった。また、教科書には書いてない、現場の実践的なやり方も教えて頂いた。その他にも、出場時以外の勤務や、休みの日の過ごし方なども話していただいた。

今回の実習を通して、教科書には書いてない、やり方や知識など多くの事を教えて頂いた。半日という短い時間だったが、濃く充実した一日を過ごすことが出来た。皆様がいるお陰で安心して暮らすことが出来ています。私も皆様のような立派な消防官になりたい。この度は、本当に有難う御座いました。

### 山名 弘将

#### 小田原市消防本部 小田原消防署

小田原市消防本部様、この度は新型コロナウイルスにより様々な影響が出ている中、私たちの実習を受け入れてくださり誠にありがとうございます。また、救急課長佐宗様をはじめ、副課長永井様、救急隊長小澤様、隊員江川様、機関員川野様、多忙の中私たちの実習を見てくださりありがとうございます。私はこの救急車同乗実習を行うことで今後就職する消防局を考えようと思っていました。しかし、新型コロナウイルスが流行し同乗実習が行えないかもしれないという話を聞き、救急車に同乗することなく進路を決めなければならないのかという焦燥感に駆られました。私たちの学年は2年次にも同乗実習があったのですがその際も実習先が確保できなかった関係で実習を行うことができませんでした。しかし今回小田原市消防本部の皆様が受け入れてくださったことで同乗実習を行うことができました。私は急病1件と火災1件に同乗することができました。救急救命士養成課程の同乗実習で火災現場に行くことができるとは思ってもいなかったためとても感激しました。実際に消防隊や指揮隊と同時に出勤することでとても高揚感を得ました。救急救命士を目指すよりも前に私は主に

火災現場に出勤する消防隊に憧れていました。その時の気持ちを思い返すことができ、実習を行う以前よりもさらに消防官として人命救助に従事したいと強く思うことができました。この度は誠にありがとうございました。

### 山本 輝

#### 逗子市消防本部 逗子消防署

今回私は、逗子消防本部への実習はまだいけておりませんが、このようなコロナ禍という大変な時期にも関わらず実習先確保してくださり先生方、実習先消防機関の皆様、ありがとうございます。救急車同乗実習Ⅱを実施するにあたり「コロナだから」や「コロナのせいで」というようなネガティブなことをばかり言っていてはしょうがないことです。いざ、自分が将来消防機関へ入庁した際もいつ大きな災害や感染拡大が起きるか分からない状態で消防職員というのはそのようなことに対して立ち向かう立場であるといえます。国民のため、国のためと自らが危険にさらされることもあるでしょう。そこでネガティブになっていては、素晴らしい救急救命士や消防職員にはなれないと思いました。このように感じれる経験を学生である今に経験をすることで、将来は間違いなく素晴らしい救急救命士や消防職員になれると信じています。

そして、本日は同級生が救急車同乗実習Ⅱを経験して私自身もものすごく学べるものがたくさんありました。各学生が、実習先でただの見学に止まっていないことは実習先のやり方にもよりますが、生徒の熱意や態度というのが良かったからバイタル測定や訓練などにも参加させていただいてるのではないかと感じました。熱意や態度というのは、一番最初に大事になってくるものだと私は思っています。指導者側も、やる気ない子たちに熱意を持って教えようという気にはならないとおもいます。やはり、自分の意思を態度などで伝えるというのはこれから消防にはいってからもよくみられる点でもあったと改めて学べました。

各消防機関では、地域によって取り組み方が違うという点も少し興味を持ちました。地域の特性や地理的なことでも、もちろん違いがありそこについて研究などしている姿というのもすごく勉強になりました。きっと、それも全て災害のためや結局国のためなのかなと感じています。自分たちがやりやすいようではなく、国民や国がより安全で安心な街を作っていくという観点からもみれると思います。自分も防災や減災といった分野に興味がありますので、将来は仕組みを作っていくことやそのような活動に参加するなどを目標に頑張っていく

らいいなと思いました。

このように感じる事ができるのも、今回の救急車同乗実習Ⅱの体験発表会がなかったら感じる事ができなかったかも知れません。まずは、そう気持ちが思ったということが今回得た経験だと思っています。最後に、自分が救急車同乗実習へいった際には、通報から活動の流れを実際に肌で感じることはもちろんもことで、消防職員のみなさんの心得や気持ちの面について少し学ばせていただきそれが、自分を成長させていただく材料になればいいなと思っています。

#### **吉田 一喜** **逗子市消防本部 逗子消防署**

今回の学内体験発表会を通して多くのことを学ぶことができました。特に最前線で活躍する救急救命士の方の処置・観察、また、患者さんへの接遇など普段では学ぶことのできないものを学ばせて頂きました。各消防本部ごとに決まり事やプロトコールなど違いがあり、各地域の特徴や特色を活かした活動の進め方があり、発表を聴講し、とても面白かったです。ですが、各地域で多少の決まり事の違いなどはありますが、救急救命士としてやることは変わらないと改めて感じた部分もありました。やはり、救急救命士は傷病者、患者さんから必要とされるとてもやりがいのある職業だと再確認できました。人から必要とされること。やりがいがあること。これはそれだけ重要なことを任されている証でもあり、少しの気の緩みや失敗は現場では許されません。特に切迫した場面が救急の現場では多く見られます。実際にこういった現場で活躍されている救急救命士の気持ちの保ち方やどのような心持ちでいるのかとても気になるところです。近い将来、誰からでも信頼され、必要な救急救命士となるために日々精進していきたいと思っています。今回発表を通して学んだこと、感じたこと、疑問に思ったことなどたくさんあります。これらのことを実際に自分が同乗実習に参加する際に糧にして頑張っていきたいと思っています。

#### **穠山 友里** **小田原市消防本部 小田原消防署**

12月10日に同乗実習へ行かせていただき、とても貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございます。最初は緊張していましたが、自分に優しく接して頂き、活動のポイントもご指導してもらいました。小田原市についてもたくさん教えて頂き、嬉しかったです。女性に対する設備も整っており素晴らしいと感じました。実際の現場でも観察内容や話し方も見

学させてもらいました。現場では最低限のことを聴取し、救急車内で詳細を具体的に聴取するようなものでした。一つひとつの考えや行動に根拠があり自分にも取り入れたいと感じました。

今回の救急車同乗実習は新型コロナウイルスも流行していますが、それにも関わらず20人という人数を受け入れて頂き、本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。どの学生もととても充実していたとのことでした。

また、自分はこの日にパンフレットの撮影も並行させていただきました。とても親切に協力してもらいました。ありがとうございます。この実習を自分の糧にして、将来は周囲から信頼される女性の救急救命士を目指します。本当にありがとうございます。

#### **上野 浩乃** **印西地区消防組合消防本部 西白井消防署**

今回、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下でお忙しい中、本学の救急医療学科の学生を実習生として受け入れてくださった印西地区消防組合消防本部の皆様、西白井消防署の皆様、同乗させていただいた西白井救急隊の皆様には本当に感謝申し上げます。出動件数が1件で不搬送であったため、救急隊の方は申し訳ないというように言っていただきましたが、このような経験をさせていただくことが出来たこと、また現役でご活躍されている消防職員の方、救急救命士の方々とお話しできる機会を頂けたこと自体がとても貴重な経験となりました。普段のシミュレーションの授業では体験できないような現場に行くことが出来、とても感動しました。また、普段の授業では同年代の学生が傷病者役となり演技をすることや、シミュレーター人形を使用している活動が多いため、高齢者の傷病者とのコミュニケーション方法については、救急救命士標準テキストの該当ページでしか読むことがありませんでした。実習をさせていただけたことで高齢者とのコミュニケーションの取り方について実際に間近で見学をすることが出来、目線を合わせるということや、話していることに共感、傾聴する姿勢等の高齢者とのコミュニケーションの取り方を学ばせていただくことが出来ました。短い期間内ではありますが、様々なことをご教授いただくことが出来、とても素晴らしい実習となりました。心より感謝申し上げます。

#### **長内 彩乃** **松戸市消防局 小金消防署**

新型コロナウイルス流行下の中、消防局全体で実習生である私たちをを温かく迎えて下さ

いました。1日行動を共にとらせていただきました。太田消防士長をはじめとする救急隊員の皆さまには大変お世話になりました。勤務交代時の車両点検、小金消防署内の施設見学、救急車の同乗から、救急隊になる経緯など個人的なお話まで聞かせていただくことができました。なぜ松戸市消防局を選んだのかや、救急隊のやりがいを話していただいたり、進路の相談まで相談させていただくことができました。今後の自分の方向を決める参考になりました。

また、救急隊員以外にも、中央消防署から小金消防署まで車で送迎していただいたり、銘菓をいただいたり、お昼にはお蕎麦を分けていただいたり、実習終了後には新松戸駅まで署長が送迎して下さるなど、色々な職員の皆さまが気を使ってくださいました。初対面でも皆さまがアットホームな雰囲気でお迎え入れてくださったおかげで、実りある充実した実習にすることができました。

直接実習に携わっていただいた救急隊員をはじめとする、松戸市消防局の消防職員の皆さまには深く感謝申し上げます。ありがとうございました。将来、働かせていただくことになりましたら、どうかよろしく願いいたします。

#### 櫻井 花乃

##### 高崎市等広域消防局 高崎中央消防署

コロナ禍という状況の中で私たち学生を受け入れてくださり、ありがとうございました。新型コロナウイルスに対する救急隊の状況を生で見ることができ医療従事者の方々の大変さを身をもって感じることができました。感染症対策の様子を見ることが出来、今までの救急車同乗実習とは違った経験をすることができました。また、令和4年の救急隊シンポジウムが高崎で行われると知った時は、全国の救急救命士の方が集まるシンポジウムが地元で開催されることになり非常に嬉しく思いました。高崎市等広域消防局高崎中央消防署の署長様、課長補佐甘田様をはじめとする消防署職員の皆様、今回の実習で同行させて頂いた救急隊長の峰村隊長、救急隊の皆様、貴重な濃い時間を過ごさせて頂きありがとうございました。救急隊の皆様には救急車の仕組みや、車内の資機材の場所や使い方なども快く教えて頂きありがとうございました。質問にもいくつも答えくださり、高崎市等広域消防局についてより知ることが出来ました。今回の救急車同乗実習でより一層、消防を目指したいと思いました。実習で学んだことを糧にこれからの授業や学校生活に活かしていきたいです。一日という間でしたが本当にありがとうございました。

#### 佐藤 ゆずほ

##### 逗子市消防本部 逗子消防署

本日の同乗実習体験発表会が公聴でき、とても良い経験になりました。私はまだ、今年度の同乗実習に参加できていないですが、皆の素晴らしい発表のおかげで、小川先生のおっしゃっていたとおり、体験はできなかったけど良い経験になったと感じました。本日沢山の症例報告を聞いて、やはり軽症、中等症が多いなど改めて感じました。医療従事者から見てしまえば、救急車を呼ぶ必要性を疑うような軽症、中等症であったとしても、傷病者にはそれぞれの背景があり、それぞれが助けを求めているということに気づかされました。また、どんな傷病者にも寄り添う姿勢が声掛けだったり、対応だったりと感じ取ることができました。その中の印象的なエピソードとして前田周君の失禁している傷病者に遭遇し、「臭いよね？」と聞かれた際に救急隊長さんが「動けなかったから、仕方ないですよ」と神対応していたのが印象的でした。私もその現場に遭遇したら、周君と同じように首を横に振ることしかできなかったと思います。シミュレーションでの傷病者・関係者対応では定型文での対応しかできていないので、もっと自分なりに工夫していきたいと思いました。リアルな救急現状では、軽症・中等症が搬送の過半数を占めており、軽症・中等症への対応が大切になってきますが、中澤先生がおっしゃっていた通り、軽症・中等症に紛れている重症を見逃してはならないと思いました。また、もう一つの印象的なエピソードとして、永田君症例で搬送先をかかりつけ医に選定したところ、傷病者本人からの拒否があり、結果7、8件電話をかけなおし、最終的にかかりつけに再選定になったというものです。結果として傷病者がかかりつけ医に納得してくれた背景として、1件1件、電話をかける際に丁寧に傷病者に対応しており、その救急隊の誠実さが伝わったことによるものでした。とても素敵な対応で、真似したいと思いました。今回の救急車同乗実習は、多くの地域にわたっており、「救急医療情報シート」や「応急手当感謝カード」「柏市ハートネット」「群馬県統合医療情報システム」「ボイストラ」など様々な地域の取り組みについても知ることが出来ました。就職先を決める上で、地域特有の取り組みを知れたのはとても良い経験でした。また、地域特有の取り組みとして、遠軽消防署の救急車内を温めておくや、雪を使った訓練などが印象的でした。今回の事故の通報者が現場から居なくなり現場選定に時間を要してしまった症例や、山名君が言っていた小田原市が自然が多く携帯電話では位置に誤差が出てしまう点から、私が通報者の立場になっ

たら、現場近くの目印を伝えようと思いました。また山名君が出動した事故現場では、現場のすぐ真横を車が通っており、二次的災害を引き起こさないため、状況評価が大切だと思いました。シミュレーション実習での状況評価は、セリフのように「二次的災害の危険性なし」といっているだけなので、現場をイメージできるように改善していきたいなと思いました。

**篠田 櫻**

**松戸市消防局 小金消防署**

松戸市消防局の皆様、小金消防署の皆様、この度は新型コロナウイルス感染症が拡大している中で救急車同乗実習を受け入れてくださりありがとうございます。普段大学で行なっている想定訓練とは全く違う緊張感や現場のリアルを知ることができました。特に印象に残った症例は42歳女性の腹痛の症例でした。激しい腹痛を訴えていた傷病者で話すこともままならないような状態でした。その際に隊長さんが問診の方法をクローズドクエスションに変えていて、救急隊の配慮が素晴らしく、コミュニケーションの取り方の勉強になりました。私は大学の授業でコミュニケーションを取ることが苦手なので今回の救急車同乗実習でコミュニケーションについて学ぶことができて良かったです。また、救急隊だけでなく消防職員の方々にも親切にいただきありがとうございます。消防の皆様温かさに感動し、将来は私も温かい心を持った救急救命士になりたいと思いました。

今回、とても貴重な経験をさせていただき本当にたくさんの学びがありました。この学びを忘れることなく日々の勉強や授業に活かしていきたい、より一層救急救命士として活動したいという気持ちが強くなりました。この度は本当にありがとうございました。

**清水 睦代**

**印西地区消防組合消防本部 西白井消防署**

今回はコロナ禍で忙しい中、同乗実習を受け入れてくださり、印西地区消防組合消防本部の皆様、西白井消防署の皆様本当にありがとうございました。私が実習に行った日は、出動件数が2件で1件は中等症。もう1件は転院搬送でした。中等症ではコロナ疑いであったので西白井消防署で実施されているPPEを行い現場に向かいました。現場に向かっている救急車内で隊員同士でしっかりPPEができているのか確認しあっていたので、これが最先端で働いても感染しない秘訣なのだと思います。

初めて救急隊から見た医師への引き継ぎを見させていただいて病院実習では見れなかつ

たやりとりも見せていただけました。そのやり取りを見せていただいたことで、傷病者が訴えている症状からなにを観察してどのような情報が必要だから病院に着くまでになにを観察すればいいかなど考える必要があると学ぶことができました。また、搬送した後の救急車内ではどのように症状を絞っていくかなどを教えてくださいととても勉強になりました。他にも、就職先に悩んでることを相談したら消防で働いた時のメリットやデメリット、どのような経験をしてきたのかなど話していただけて今後の進路に活かせることも話して下さりありがとうございます。今回の実習を通して学んだことを生かし、勉学に励んでいきたいと思えます。

**末村 月乃**

**印西地区消防組合消防本部 西白井消防署**

今回の実習で同乗させていただいた工藤隊長をはじめ、指導して下さった西白井消防署の皆様、大変お世話になりました。そして、新型コロナウイルス感染症で大変な状況の中救急車同乗実習を受け入れてくださり誠にありがとうございます。

今回の実習を通して新型コロナウイルス感染症への対策を行った救急医療体制についてなど、今の状況でしか学ぶことができないことを知ることができ、とても貴重な体験をさせていただきました。また、救急出動以外での救急隊の仕事や地域の方々との繋がりについて、機関員として働く為に必要なこと、入電から出動までの速さから一分一秒の大切さなど、一日という短い時間ではありましたが、とてもたくさんのごことについて学ばせていただきました。出動時には、犬がいることや雨が降ってるなど、普段の学校でのシミュレーションでは経験ができない様々な環境での活動について実際の現場で学ぶことができました。また、情報聴取がなかなかできない状況での受傷機転の把握の難しさ、様々なことを想定した上での判断の難しさを実感しました。

この貴重な経験を今後の勉学に活かし、傷病者や家族の心に寄り添える救急救命士を目指し励んでいきたいと思えます。大変お忙しい中、ご指導いただき誠にありがとうございました。

**萩原 鈴香**

**柏市消防局 東部消防署**

この度は日々の業務に加え、新型コロナウイルス感染症対応で大変お忙しい中、同乗実習を受け入れてくださりありがとうございます。また、松本隊長、野呂瀬隊長をはじめとする救急隊員の皆様にも重ねて感謝申し上げます。

細かい所まで気を配ってくださいましたので、過度に緊張しすぎず実習に望むことができました。実習では実際に現場での活動を体験・見学することができ、これまで行ってきた訓練やシミュレーション授業との違いを感じることができました。

他にも出動件数が多い中、空いたわずかな時間で沢山のことを教えていただきました。加えて質問にも快く答えてくださり、ありがとうございました。自身が目標に掲げていた接遇面についてのアドバイスや、実際にバイタル測定をさせていただけたこと、皆さんと症例検討できたことが特に印象に残っています。

実習を通し傷病者の方々に実際に触れてみて、改めて救急救命士になりたいと強く感じた貴重な1日でした。現場の緊張感を忘れず、今後の訓練に活かしていきたいと思います。皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

#### 畑中 美憂

##### 印西地区消防組合消防本部 西白井消防署

この度は新型コロナウイルスが蔓延している中、実習を受け入れるだけでも厳しいのにも関わらず分からないことは優しく教えて下さりありがとうございました。中々、新型コロナウイルスのこともありお話をさせていただく機会も多くはありませんでしたが学びある一日となりました。1月23日に行われました救急車同乗実習発表会では2、3年生、先生方の前で今回実習で学んだことを学生間で共有、フィードバックすることが出来て自分自身も、他の学生も大きく成長することが出来ました。今回の救急車同乗実習では病院選定の仕方や傷病者の方とのコミュニケーションの取り方、消防署内ではどのような雰囲気でお仕事をされているのかを学びに行かせていただきました。残念ながら出動回数は0件でしたが、訓練見学や現役救急救命士の方とお話することができ、普段の授業では学べないことを多く学ばさせていただきました。今後は憧れの消防に入り救急救命士として活躍できるよう今回実習で学んだことを活かして日々精進、学ぶことを常に忘れずにしていきたいと思います。最後になりますがお忙しい中、本当にありがとうございました。

#### 牧野 慧弥

##### 知多中部広域事務組合消防本部 半田消防署 北部出張所

初めに、感染症が蔓延する中、実習を受け入れて頂きありがとうございました。初めて救急車に乗り間近で見学させて頂きとても良い経

験となりました。堀隊員は学科の先輩として、また社会人として大変尊敬しました。沢山お話しする事ができ自分の将来の相談にも乗って頂きました。本当に感謝しています。

武藤機関員は出動が入ると署内の和やかな雰囲気から一変し1秒でも早く安全に現場へ向かっておりました。車内での資機材の点検が細やかで救急活動を円滑に行う上でとても大切な事と教えて頂きました。

都築隊長には沢山の事を教えて頂きました。署でバイタルを取る際、私がこの値は全て信用出来ると判断すると、機械は信用出来ない。その為に機械の特性を知っておく必要があり、バイタルサインは時間をかけて行えば誰でも出来ると教えて頂き、自分自身その事に気づかせて頂きました。

学校で資機材の取扱説明書を見てみると教科書には載っていない事が書いてあり、我流ではなく、資機材の持っている力を全て出し切らないと現場では使えないと強く実感しました。また、傷病者が求めているのは、救命士ではなく病院で治療を行う事という言葉がとても印象に残りました。私達のゴールは病院に搬送する事ではなく傷病者に病院で適切な治療を提供する事であると再確認しました。北部出張所の皆さんには本当に暖かく受け入れてくださり感謝しています。ありがとうございました。

#### 山田 桃由

##### 佐野市消防本部 東消防署

新型コロナウイルス感染症拡大の中、早く実習を受け入れてくださった佐野市消防本部の皆様には感謝申し上げます。今回の同乗実習では、私の地元である、栃木県佐野市の佐野市消防本部、東消防署で実習をさせていただきました。消防署に到着した際はとても緊張していましたが、消防職員の方々が優しく接して下さり安心して同乗実習を行うことができました。1件目では、トラックの荷台約2mからの墜落ということで外傷の指令内容でした。指令内容からどのような現場なのか想像することが難しかったです。しかし、救急隊の方々は少ない情報から様々な現場を考え話し合っていました。自分自身、授業で行なっているシミュレーション実習では、指令内容を聞いてから現場を想像することがあまり得意ではないので、隊員同士の話し合いや知識の豊富さが重要になるのだと感じました。また、新型コロナウイルス感染症が拡大していたため、今までとは異なった傷病者対応でしたが、そのようなことを考慮し活動していました。1日という短さでしたが、今回のような今まで経験したことがない環境下で同乗実習が行えたことは貴重なことであり、

これからの人生の糧になると思います。今回の同乗実習を通してより一層、将来は消防機関に就職したいという気持ちが大きくなりました。また、今回の実習で得たことを今後の勉学や将来に活かし優れた救急救命士を目指して頑張ります。

横山 愛美

小田原市消防本部 小田原消防署

小田原市消防本部小田原消防署の皆様、この度は新型コロナウイルス感染症が拡大する中、救急車同乗実習を受け入れてくださりありがとうございました。

当日一緒に活動させていただきました、小澤さんをはじめとする救急隊の方々や永井さん、署内を案内していただきました職員の皆様には大変お世話になりました。実習日は、合計で4件の出場に同乗させていただき、出場指令から現場到着までの準備、実際の現場活動や病院

での傷病者引継ぎなど、救急隊活動の流れを学ぶことが出来ました。また、活動中に体温や血圧などのバイタル測定も行わせていただいたため、実際に傷病者の方に触れコミュニケーションをとることも出来ました。他にも、救急車内の資器材説明や書類作成の方法・個人情報の管理・症例の振り返りなど、実習でなければ学べないことを多く教えていただきました。帰署中やお昼休みには、私自身の進路や国家試験について・署内の雰囲気などについてお話をしてくださり、救急隊の方々や職員の皆さまの温かさを感じました。

最後に、今回の実習にご尽力してくださいました小田原市消防本部小田原消防署の皆さまには心より感謝申し上げます。同乗実習で学んだことをしっかりまとめ、自分が目指す救急救命士に向けて頑張りたいと思います。ありがとうございました。



通報から現場活動



現場活動から車内収容



車内活動から医師引継

## 救急車同乗実習への期待（次年度履修学生）

### 秋山 隆翔

私は、今回の救急車同乗実習の体験発表を聴講して今の自分に大きな経験になるのではないかと感じたと同時に、今の自分の知識のままでは、現場で得られる経験を全て吸収することができないと思いました。しかし、このような貴重な機会を得られているのに、少しでも生かせないのはとても勿体ないことです。実習までは残り一週間ほどしかありませんが、今の自分の知識をできるだけ高めた状態で実習に臨みたいと思います。次に、救急車に同乗して学びたい事は2つあります。1つ目は、先輩方の発表にもあった現場到着前の準備や現場での活動の仕方です。やはり、体験発表会だけでは全てを知る事はできないと思うので実際に自分の目でみて学びたいと思いました。2つ目は、現場ではなく署での活動や仕事を学びたいと思いました。私は、まだ将来の夢がはっきりしていません。なので多くの場所でより多くの体験をして自分の将来に繋げたいと思いました。最後に、今回、新型コロナウイルスで多忙の中、救急車同乗実習や同乗実習体験発表会を開催して下さった教職員の皆様と先輩方、本当にありがとうございました。これからの大学生活や将来に活かせるよう頑張っていきたいと思えます。

### 井開 泰輔

傷病者とのコミュニケーションや関係者に情報を聞く事で多岐に渡る疾患を収縮でき、疾患判別につながるので、医療の知識は勿論、他人とのコミュニケーション能力も十分に経験が必要だなと感じた。また、病院選定時に医師に相談するときは長々とエピソードで話すのではなく、簡潔に必要な情報を流すことが大事だと気づいた。また消防内部の仕組みをよく勉強できる為、今からワクワクしている。また、ほとんどの先輩が良い体験ができたと言っていた為、消防を目指している自分からすると早く救急車に乗りたい気持ちが強まった。

私は、3つ学びたいことがある。1つ目はバイタルやサンプルを元に、アンダートリアージ、オーバートリアージをしない。2つ目は1つの疾患に決めつけるのではなくて critical、minor と可能性のある疾患を分けて、二手、三手先を考え行動できるようにすること。3つ目は傷病者や関係者とのコミュニケーションをとること。現場では、バイタルだけでは見えない疾患があるため、ご家族や傷病者本人から SAMPLE などの情報を聞き、答えを導き出すことが重要となってくる。また救命士にとっては数

ある傷病者の1人に過ぎないが、傷病者本人や関係者にとっては救命士はとても重要な人材であることを忘れてはいけないことをモットーに活動していきたい。

### 石田 圭吾

私は、先輩方の救急車同乗実習の発表を聴講し思ったことはほとんどの先輩方が救命士の方々をカッコいいやすごいと言っていたので実際に現場で働く救命士の方々を早く見たいと思いました。さらに、自分も将来救命士として働くために先輩方の話や実際に実習に行った際に体験できたことを自分の力にしたいと思いました。1番印象に残った話は原付の事故の際に免許証を持っていなかった話です。現場に警察官がいたり救命士が働く現場は安全な場所だけではないと改めて感じました。時には、犯罪に巻き込まれたり大事故や大災害など自分の身も守れるか不安なときもあると思います。自分の命を守ってこそその救命士なのでどうやって生き抜くかこれから学んでいきたいです。

自分が救急車同乗実習で学びたいことは救急隊のチーム医療やどのようにして円滑に手技をしているかなどを実際に見て、自分の技量をあげたいと思います。コロナ禍での実習なのでどこまでできるかは分かりませんが出来る限り全力で挑戦したいです。去年の病院実習では積極性を欠いてしまったのが反省点としてあります。今回の実習では積極性を示し、自分が立派な救命士に一步でも近づけたらと思っています。

そのために実習前も学校での実技演習や座学、自習も怠らず万全な状態で実習を迎えたいです。

### 石原 燎

救急車同乗実習Ⅱを終えた先輩たちの発表には普段自分達が大学で学んできた状況、初期評価の事からまだ学んだことのない病態、救急要請沢山があることを知りました。それを知って更に同乗実習や、消防機関見学に行きたいと思うと同時に、今の自分の知識と技術で行って大丈夫なのかととても不安になりました。先輩たちは同乗実習中に傷病者のバイタルなどを取っていたと発表していました。大体の現場滞在が10分以内で実際の傷病者、この状況でバイタルを確実にちゃんと取れるか自分はまだ不安です。そのためにも実技面でも更に成長していかなければと思いました。

実際に、自分自身が実習に行くのならば、で

きるだけ将来の自分の救急救命士としてのビジョンに近い働き方、をしている消防機関に見学に行きたいと思います。まだ、どんな働き方をしたいか、明確な目標は立っていませんが、大学生でいる間にここで働きたい。こういった救急救命士になりたい。という目標に近い消防機関を間近で見学したいと思います。そして、その目標となる消防機関で働くには自分に何が足りないかを素直に感じ取り、就職する前に沢山ある勉強時間で、補っていければと思います。

また、大学では感じることのできなかつた、傷病者の方のリアルな気持ちや、ご家族の気持ち、これは初めて目の当たりにします。慣れることのない慣れてはいけないものだと思いますが、そのなかでも救急救命士として冷静にIC、処置、搬送、病院選定が出来るよう実習でその場空気を受け止めたいと思います。

### 石渡 大祐

本日の先輩方の発表を聞かせていただいて思ったことはまず意識の高さとクオリティーの高さです。誰ひとり手を抜かないこと。当たり前ですがこれはそんなに簡単なことではありません。この先輩たちの姿勢を見習わなければなりません。次自分たちが救急車に同乗して学びたいことは救急救命士が医療現場での最前線で働くプロの背中をみて学ばせていただきたいです。

また、普段練習している特定行為や現場での判断力や物事の考え方を学びに行きたいと思っています。

貴重な先輩方のお話を聞いて大変勉強になりました。

### 伊藤 竜太

先輩方の救急車同乗体験を聞いて、学んだことが三点あります。

一つ目は、実習前に自分が何を学びたいか明確していくことが重要だと思いました。今回講義を聞いていて、貴重な体験をさせていただいているのに目標になるものを考えずに行くのは非常にもったいない、また良い実習にならないと思いました。

二つ目は、自分の進路を定めることができる場所だと思いました。たくさんある進路の中で迷っていても、実際に見に行くことで、ネットで調べるだけじゃわからない雰囲気や新たな魅力を見つけることができる場所だと思いました。

三つ目は、実習中に教えてもらって事・見してもらったことを、まねることが重要だと思いました。教科書には書いていない体験や今まで

の経験を指導してもらうのは貴重であり、他では経験することのできないと思います。実習中は聞くのだけではなく、行動をしていくことで今後活かすことができると考えます。

自分が実習生になった時に、以上の三点を気を付けていきたいです。

自分が救急車に同乗して学びたいのは、現場に行く前の想定をどうしているのか、出動していない時に何をしているのか、周りとの関係性などを学びたいです。

### 上坂 淳

今回の体験発表会では多くの先輩による発表でとても多くの症例を体験することができました。実習を行なった場所も人それぞれで各地の消防署の体制や地域ごとにメディカルコントロールが違ったりと勉強になりました。また症例だけでなくその症例に対する対応も発表されておりとても勉強になりました。1日どのような流れで行うのかもわかり自分が実習に行く時のことを想像できました。このコロナという大変な状況の中実習を実施できるということはとても貴重なことだと思います。そしてそれを聴けるということもとても貴重なことです。その点でとてもいい発表会だったと思います。さらには学生一人一人違う気づきを得ていて自分にとっても大きな経験値となりました。例えば感染防止対策を学んだ人、聞いたことのない疾患に出会った人、隊長の指示の重要性を学んだ人、地方ならではのプロトコルを学んだ人など先輩方が学んだことを吸収できたい機会だったと思います。そして自分が行くのが楽しみになりました。見学でも知識をつけて自分で考えることでより充実したものになると思うのでその時までしっかりと知識をつけていきたいです。最後にこの同乗実習も先生方の努力と消防機関が受け入れてくださることによって実現するものなので感謝の心を忘れず勉強していきたいです。

### 宇佐美 葵

今回の同乗実習の発表を聞いてまず思ったことは、新型コロナウイルスの影響により実習などがなかなか行えない中で、日体大では多くの先輩方が同乗実習を行えているという事に驚きました。先生方が色々なところにアポを取ってくれている事は勿論、例年に比べ異常な年になっているにも関わらず、実習を引き受けてくださる消防本部の方々に感謝を忘れずに取り組まなければならないと思いました。コロナが収まったとしても、こういった大勢の方の計らいがある事を考えて活動をしたいです。

先輩方の発表では、『傷病者ファースト』『PA

連携の大切さ』『見た目やバイタルだけに捉われず、色々な疾患を考える』などのキーワードが多く出ていたように感じました。普段、授業で行なっているシミュレーションとは異なり、実際に傷病者に対応する事がどれだけ難しいか、自分達も病院実習で少しだけ学ぶことができました。先輩方の発表から得た教訓や、今まで学んだ事を活かして、傷病者に寄り添える救命士を目指したいです。以上の事を踏まえて積極的に救急車同乗実習に取り組みたいと思います。

### 内田 龍介

先輩の同乗実習の発表を聴講し、私が思ったことは、1日だけの実習でも、多くの経験や技術が身につけると感じました。その中で一番気になったことは、3年生の遠山先輩の松戸消防に行った発表です。私は、柏に住んでおり、松戸市は、隣です。その隣の消防署で、とてもいい経験をしていたのでとても魅力的に感じました。症例としては、75歳女性1時間前から胸が苦しいとの救急要請。現場到着時、体動困難、意識 JCS1、会話可能と言う条件から、車内収容し病院に向かっている途中、急な意識レベル低下意識 JCS300 まで行き、心電図波形は、VFで胸骨圧迫とショックが必要な大事な場面に遭遇し、良い経験を遠山先輩はしていたので、その報告を聞き自分もこのような経験を積みたいと感じました。いつどこでこの症例や、重症な傷病者に遭遇するかわかりませんが、とても良い経験を積めるように基礎になる勉強を今のうちから頑張ろうと思いました。また、現着時の波形、救急車の車内で取った波形、ショックし Rosc 後の波形を見て、1枚目は、STが上昇していたのが読み取れたので1年より2年次の方ができている。成長していると感じたので、この調子で頑張っていきたいと思います。

### 産形 大地

先輩方の発表を聞きまして、一番最初に感じたことはCPA症例を経験している方がかなり多くいた事です。これだけの人数の学生がいるので誰かはCPA症例を経験すると思っていたのですが、予想よりも多くの方が当たっていたため驚きました。またCPA訓練の詳細なども丁寧に説明していた先輩もいて、消防機関がいかに効率的な活動をしているのかよく理解することができました。また私は病院実習でほとんど傷病者を見る事ができませんでした。そのため来年度の病院実習や救急車同乗実習で傷病者を目の前にした時、目の前の光景に耐えられる自信がないと思いました。

私が同乗実習で学びたい事についてです。一

番は傷病者とのコミュニケーションをどのように行なっているのか、ICをどの程度噛み砕いて説明しているのか等です。またCPA対応も間近で見学したいです。今この文面でこれ、と一つに絞りきれないほど見て、学びたい事が多くあります。様々な疾患、色々な年齢の傷病者とどのように寄り添い、対応するのかをまずは間近で学びたいです。

また搬送方法であったり病院選択であったりの判断基準、署内でどのような仕事を行なっているか。普段生活している上で中々見れない救急隊の姿であったりを見て、雰囲気等を感じられたら、と思います。

### 大野 俊介

本日の先輩方の発表を聴講した感想は、各消防署によって、救命活動以外での一日の活動内容が違ってくるということが、とても興味深かったし面白いなと感じました。特に、北海道のほうまで実習に行っていた先輩のお話で、冬の北海道は、気温が氷点下までいくので活動に必要な機材が凍ってしまう場合がある。そのため、凍らないようにヒーターの前で温めるという内容は、救命活動以外で、実際に現地へ行かないと関東で生活する私には想像ができず、初めて聞く内容だったのでとても新鮮で面白かったです。そして、実際の現場での活動で、迅速に医療機関へ搬送するには、現場での経験や傷病者と隊員とのコミュニケーション能力、そして疾病やどういった処置をするのかが迅速に搬送するために特に重要だと感じました。ほかには、現場での活動以外どういったことをやっているのか、指令室の状況など多くのことを知れてとても有意義な時間でした。

私が救急車同乗実習で学びたいことは、普段の授業と現場に立って活動することは、同じ内容をやっていたとしても、空気感が違うと思うので、そこから得られる経験であったり、新しい知識を学びたいです。また、現場での活動以外はどのようなことをしているのか実習で学び、参考になったところはどんどん吸収していきたいと思いました。

### 大山 凌治

先輩方の貴重な発表を傾聴して特に学んだことはコミュニケーションについてです。年齢や性別、人種が様々である傷病者においてどのようなコミュニケーションの仕方を選ぶべきか、またどのような言葉や声かけをすべきであるかがとても重要であることを実感しました。例えば、小児に対しては難しい言葉ではなく簡単な言葉を選ぶことや、言葉だけでなく女性の救急救命士や隊員がいる場合には女性に対応

していただくことも方法の一つであると学びました。女性の消防吏員が増加傾向にある中で女性の救急救命士の活躍を症例報告から知れたことはとても印象に残りました。救急隊は1人ではなく少なくとも3人以上で活動することから、より隊の中での連携を取ることが大切であると思いました。加えて、隊だけでなく他職種連携を取ることにより良い活動に繋がるため、他職種の理解を深めることも重要であると思いました。

また、自分が救急車同乗実習に行く際には、救急隊のコミュニケーションの取り方について自分自身で現場を見ることでさらに深く学び、授業で学ぶ知識や技術の現場での応用を特に学びたいと思いました。重症傷病者など一分一秒を争う際の迅速な隊活動や限られたスペースでの活動など現場の状況をしっかりと目に焼き付け、自分の将来に活かすことのできる実習にしたいと思っています。その為にも救急車同乗実習までにしっかりと知識や技術を習得し、勉強に励みたいと思います。

#### 籠田 陸

まず3年生の先輩方の貴重な体験談を聞くことができたことに感謝したいと思います。自分達はコロナの影響により救急車同乗実習が行うことができず非常に残念な気持ちです。しかし各実習先の方々が見学というコロナが蔓延しリスクもある中計画してくださり、さらに学校側でも校内での実戦を想定した演習を行なってくださることがどれだけ貴重なことかを考えてこれからの救急車同乗実習に生かしていきたいと思いました。先輩方の発表を聞いて思ったことは救急現場で絶対はないということです。いついかなる時でも臨機応変に対応することが大切だということが発表を聞いて感じました。実際の現場に行っても救急指令とは異なる場合も多くあると発表を聞いて思い現場までの時間で多くの可能性を考えて現場に到着したときに落ち着いて行動できるような救急救命士を目指したいと思いました。さらに各消防署によって大きな特徴があるのも感じました。先輩方の中には地元の消防署に実習先として行かせていただき貴重な体験をしたという発表を多く聞きました。自分が救急車に同乗したときには救急救命士の方々の現場へ向かう際になにを予想し、行動しているかを見て感じ自分の成長に繋げていきたいと思いました。

#### 柏谷 一輝

先輩方の救急車同乗実習の発表を聞いて、新型コロナウイルス感染症の流行により、救急車

同乗実習の期間が1日と少ない実習期間にもかかわらず、より質の高い経験を積んでいるような印象を受けた。その背景には学生により良い実習になるような消防機関の配慮があったからなのではないかと感じた。特に救急出動がなかった消防署でも、署内で隊活動や施設見学、訓練の見学など、少しでも良い経験をさせてもらったと言うのを聞いて、とてもありがたいなと感じた。症例に関しては軽症からCPAなどたくさん症例を聞くことができた。特に遠山拓朗さんが見た症例では、急性心筋梗塞からCPAへ移行するなど現場ならではのリアルな緊迫感を感じた人もいた。すぐに電気ショックをしてROSCしたため一命を取り留めたと言っていたが、かなり救急車同乗実習で見られる確率は少ないであろう症例だったと自分は思った。自分たち2年生は演じている人間やシュミレーター人形などでしか隊活動で疾患を見たことがないため、リアルな現場に行った時にいつもと同じような対応、処置ができるかと考えたときに絶対にできないと思う。そのためにはまずは演じている人やシュミレーター人形で余裕を持って対応できるくらいになれるようにシミュレーションの授業などで練習して、来年の救急車同乗実習では現場で傷病者への接し方などを見て、学び、現場での対応力というのを身につけていければいいと思う。

#### 片平 達也

私は本日の同乗実習の報告会を聴講し、率直には先輩方は行けて羨ましいと思いました。ですが、実際にお話しを聞いていると例年と異なり1日しか行けなかったため多い人でも出場件数は4件程でした。中には新型コロナウイルスの関係で救急車に同乗出来なかった人や0件だったという人もいたため、先輩方でも100%満足出来ているのかという疑問も残りました。その様な状況でも先輩方はそれぞれが実習を通して学んだことを教えてくださいましたので、とても勉強になりました。澁澤先輩の発表で「救急隊の方がニューモシスチス肺炎を知らなかった」とありましたが、自分は内科学で習い知っていたため本学の教育のレベルが高いということにも気づけました。不搬送に関しては不搬送にして良い根拠と勇気を持ち、同意書にサインをしていただくということが分かりました。皆さんの発表を聞いているとコミュニケーションをこまめに取ることが大切だと学びました。私は地元の横須賀市消防局で実習を行いたいと思っています。同乗した際に学びたいことは高齢者とのコミュニケーションを学ぶ機会になるからです。また、心肺停止などの重症例に遭遇したら救急隊の活動がどれだけ速い

ものなのか、特定行為の適応例であればどのタイミングで行うのかということも学びたいと思っています。今年は横須賀は受け入れていないと聞いたので来年は行きたいです。

### 加藤 龍二

本日の救急車同乗実習Ⅱ体験発表会を視聴し、実際の救急現場では情報収集、伝達が重要だと学んだ。救急現場では必ずしも患者が喋れたりするわけではないため、患者の関係者や現場の状況、目撃した人などから正しい情報を収集することができれば患者へのより迅速な対応、処置が可能となる。また、情報収集の際、「なにがあったんですか？」とただ聞くのではなく、関係者や目撃した人も焦ったり精神的に参っていることがあるため、聞く相手に合わせて声のトーンや質問の仕方を変えることが大事だと感じた。バイスタンダーへの口頭指導の際も同じように正しく情報を聞き取り、相手にわかりやすく伝えることが大事だと感じた。この相手のことを考えて対応するのは患者に対しても同じである。救急隊到着から到着までの間、患者、患者の関係者は不安に駆られているため、励ましの声掛けが重要となる。今日の発表者の中にも、救急隊の人の励ます声掛けが印象に残ったと言っている人が多かった。救急隊の方々の患者達を安心させたり、勇気づける励まし方を自分の救急車同乗実習の時に学びたいと思う。他にも上記で記載した情報収集、伝達の仕方や救急現場、救急車内での隊長、隊員の指揮の取り方、動きかなども学び吸収したいと思う。

### 川島 龍之介

今回、先輩方の貴重な講義を聞き、消防に対する興味や来年自分達が実際に現場に向き合える楽しみさが増していきました。実習先がそれぞれ違うことから地域によってのプロトコールや活動の違いなどを聞き、感心を持って講義を聞く事が出来た。特に私自信が印象に残っている事があり、3年生の遠山拓朗さんの講義が印象強く残りました。意識レベル1から300まで落ち、心停止の波形VFからショック1回でROSCした症例は先生方などからは珍しい症例と話しており、それを間近で救急隊による活動が見れた事に興味を持ち、この症例を講義してくれた事で私自身も勉強になりました。他の先輩方も素晴らしい症例でありましたが特に遠山さんの症例は素晴らしいものであった。他の症例報告でも気になったのは印西消防本部では心原性ショックでも輸液を行う事です。東京消防や救急救命テキストでは輸液を行うのは増悪させてしまう事から基本禁じられて

いるのだが、印西消防では輸液を行う事は許されているので実際の現場で心原性ショックが疑われた場合でもちゃんとした根拠があれば輸液を行える事が出来るのに感心持つようになった。この救急車同乗実習で今まで知らなかった地域によっての救急隊の活動や珍しい症例を知る事ができ、勉強になり、来年に向けての意欲が増す事が出来た。

### 菊地 優真

先輩方の救急同乗実習の報告会を聴講して現場で経験することの重要性を学んだ。例えば、交通外傷の現場であれば自分達の救急隊だけでなく他の救急隊や警察、救助隊、特殊な現場ならDMATも出動することもある。その中で、どの部隊がどんな活動をするのか早急に決定しなくてはならない。そのためにはそれぞれの部隊の特性や現場の流れを正確に理解しておく必要があることはもどろんのこと、他職種と情報を共有するコミュニケーション能力も求められる。もちろんシミュレーションの講義でも他職種を交えた想定はあると思うけれども現場で経験することでより実践を知ることができるのではないかと感じた。

そしてもうひとつ感じた事は、救急車の運転技術の大切さである。くも膜下出血の傷病者を乗せている場合は再破裂を防止するためなるべく振動を与えないような運転をすることは学んだが、末期癌で全身痛がある傷病者も同じような運転をしていたという報告の内容だった。救急車の運行はただ車を運転しているだけでなく、傷病者の命を運んでいる気持ちで運転しているのだと感じた。自分自身、非常に興味ある内容なので来年救急車同乗実習で救急車に乗せていただくときは詳しく聞いてみたい。

### 熊谷 高希

先輩方の救急車同乗実習の体験発表を聴講して、臨機対応に行動することが救急救命士にとって必要不可欠なことだと改めて感じる事ができた。119番通報をする上で、誤報で呼んでしまうことも少なからずあることが発表を聞いていて分かり、搬送しなくてもよい傷病者を搬送したり、軽症の傷病者を中等症もしくは重症と判断して病院に搬送することは本当に必要な人に病床が足りなくなってしまう恐れもあり、ましてコロナ禍である現状では特に減らさなければならぬため、その時に応じた判断力が重要であるのだ。また、#7119が全国的に広まっていなくて人々に認知されていないのがまたひとつの理由としてあげられる。#7119を広めることで本当に救急車を呼ぶべき

かが一般市民の方々にもわかるため、私自身このダイヤルを広めることで誤報や必要のない救急車要請がかなり減らされるのではないだろうかと考える。そのためには消防署をはじめ、医療機関や医療従事者、それを学ぶ学生が公演などを開き#7119がより身近に感じさせるよう努めなければならない。

そして自分が来年度救急車同乗実習をさせて頂く上で学びたいことは、救急要請の内容の現状、消防署での訓練や事務内容など細かなところまで知っていききたい。私は将来的に地元の消防署で救急救命士として働きたいと考えている。その上で現状の救急要請対応や消防署での仕事内容を知ることによって早く消防という職業に馴染めるだろう。1人でも多くの方を助けるために力になれるよう努力を怠らず努めていきたい。

### 栗崎 宗介

先輩方の救急車同乗実習の発表を聴講して、どのように救急車同乗実習に臨めば良いのかがある程度わかりました。

まずどのようなことに着眼点を置いて実習をするのかということ、例えば地域にどのように接するのか、1日の流れはどうなっているのか、など着眼点を置いておくことでより分かりやすく実習が進められるのではないかと感じました。

私が救急車に同乗して学びたいことは救急車が出動してから帰ってくるまでの流れです。要請が入ってから何を準備すれば良いのか、現場の所見からどのような病院を選定すれば良いのか、所見を病院にどのように伝えるべきなのか、どのような処置を施すべきか、たくさんのことを考えなければいけない中でどれを優先すべきなのか、そのような一連の流れを見てみたいですし、そのような経験をたくさん積んでいる人に何を考えているかお話を伺いたいです。

今回はコロナウイルスの影響により見学ということになってしまいましたが、先輩方のように着眼点を持ち真剣に見学をして、たくさん話を聞くことでたくさんの中身を自分の中に落とし込み充実した実習になるように取り組みたいと考えています。

### 郷田 恵人

今回はコロナの影響があり、先輩方が自分自身の地元などといった遠方に同乗実習に行ったので、様々な消防署の決まりや活動状態の違いなどを知れてとても自分自身の為になる活動報告会でした。地域のメディカルコントロールがこんなにも各地域で違いがあるのだなど

知ることが出来ました。

他にも、勤務前に資機材を全て点検するところから始まる消防署がある中、救急車内をストープで暖め輸液を凍らないようにしたりするなどといった地域の活動の違いも知ることが出来ました。

午前中に救命士、消防士を問わず皆んなで訓練をしたり午後からはCPA訓練や外傷訓練などを行ったりすることで、現場に出た際にすぐ傷病者に処置を行うことが出来るように日々訓練をしている事を学ぶ事が出来ました。

私が実際に救急車同乗実習に行かせてもらい学びたい事は、もちろん傷病者の主訴や既往歴に合わせて処置をする事も当然ですが、実際にご家族やお友達にとって大切な人が救急搬送されるとなった際に、自分なら今の傷病者の状態やこれからどの様に処置をしていくかなどを簡潔に的確に分かりやすく伝える自信が今はありません。なので、同乗実習では普段のシミュレーションの授業では体験できない、本当の現場の緊張感や臨場感を味わいたいと考えております。

### 小林 佳史

私は今回、救急車同乗実習体験発表会を聴講し、コミュニケーション能力の大切さを学びました。発表されていた3年生の多くが、実習で感じたことの中で、救急隊員のコミュニケーションに感動したとおっしゃっていました。救急車を利用する傷病者の中には、色々な方がいると思われれます。今回の症例報告の中でも、高齢者や子どもへの対応について話されている3年生がいました。その救急隊員の対応は、とても丁寧な対応で、子どもに対しては、かがんで目線を合わせてはなし、時には手を握るようなこともしながらコミュニケーションを図っていたとのことでした。また、高齢者に対しては、わかりやすい言葉で説明を行い、聞き取りにくそうな様子であれば復唱するなど患者の年齢や、性格に合わせて話し方を変えていたそうです。これらの話を伺い私は、コミュニケーションの取り方を工夫するようにしたいと感じました。私は将来、救急車に乗車する全ての人に安心を与えられる救急救命士になりたいと考えています。そのためには、今回発表で出てきた救急隊員の方がしていたようなコミュニケーションを実践するとともに、授業や救急医療サークルでの活動で隊活動の練習をする際には、傷病者への対応にも気を使えるようにしたいと考えさせられました。

### 小林 優輝

本日、先輩方の救急車同乗実習体験発表会を

聴いて、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。普段、大学で訓練をしている隊活動に近いものもあれば、想像がつかないような症例もたくさん知ることが出来て、とても良かったです。中にはCPAからROSCした症例や、残念ながら救うことが出来ない命など、実際の救急現場ではそういった事実があることを身に染みて感じることが出来ました。また、どの先輩方の発表を聞いていても消防機関では司令が入ってから消防署を出るまで1分程で、現場滞在時間がとても短く救急車内で活動している時間が多いということも学ばせていただきました。最後の小川先生の話にもありましたが、救命率を上げるためには循環器系、呼吸器系の処置を行い、救命士が2人以上いると蘇生する確率が上がるというのを聞いて、いかに救急救命士が行える特定行為が重要であるか、改めてわかりました。来年、救急車同乗実習がありますが、先輩の話にあったように、地域によっては心原性ショックでも静脈路確保が出来る所もあり、私は地域によって異なるプロトコルについて興味があるので、その点について学びたいと思いました。本日はとても勉強になる良い機会でした。このような機会を作って下さり、ありがとうございました。

#### 小山 瑞規

先輩方の発表を聴講して、まず思ったことは来年は自分がみんなの前に立ち分りやすく伝えないといけないんだと率直に思いました。それと同様に来年は自分の将来像がより深く濃くなると感じました。またコロナが収まっていることに期待したいです。

救急車同乗実習は小川先生もおっしゃられてたようにその地区や、その日によって当たり前ですけど出動件数が大分違ってくるのだと聴講して思いました。出動件数が少ない方が本当は良いのですが一日限りの機会ですので色々な症例に取り付けてみたいですね。その為にその消防、病院の出動件数や傷病者の平均年齢など行く前にしっかり調べ基本のことができるようにシミュレーション実習で学んでいこうと思いました。後、中澤先生がおっしゃっていたその地域の広さどこまで担当なのかもわかっているといいと分かりました。自分は将来、消防で働きたいと考えており、消防の救急の人は体育会系で厳し目の人が多いと思っていましたが先輩方の話を聞いてとても優しく親切に教えてくださると聞いて少し安心しました。

また消防の人は体育会系の人が多いので先輩がおっしゃっていた筋トレしておくコミュニケーションに繋がるとおっしゃっていた

ので勉強と同時に運動（筋トレ）もしといた方がいいと思いました。頑張ってください。

#### 齊藤 諒太

コロナ禍ということもあり、実習が縮小されたにもかかわらず、一人一人が様々な教訓を学んでいて、感銘を受けました。話を聴講することで、傷病者に対するコミュニケーションの取り方や、考えられる疾患の判別など、新たな見方で捉えることができ、大変勉強になりました。先輩方が発表し終わった後の質疑応答で、気付かなかった部分に気づくことができたり、称賛する部分もあったり、みんなの前で発表することに大きな意味があると感じました。

私が救急車同乗実習をするにあたって、学びたいことが二つあります。

一つ目は、情報収集です。救急の現場では、より早く、より正確な情報が求められるので、傷病者を不安にさせず、プライバシーにも配慮した質問をどのように行うのかを学びたいと思っています。

二つ目は、チームワークです。現場では、それぞれが分担して対応することになります。短い時間で搬送するには、常に情報を共有し、自分は何をするべきかを迷いなく行動することが必要になってくると思います。実習でこれらを身につけたいと思っています。

救急医療の現場は一刻を争うため、状況を素早く察知する観察力や冷静な判断力、これらを実行できる行動力が必要になります。シミュレーション実習で知識を身につけ、現場で発揮できるように努力してまいりたいと思います。

#### 佐久間 俊輔

本日、先輩方の同乗実習発表会を聴講して、実習に対する意欲がとても高まりました。今まで文章の問題としてや、先生の話としてしか聞いたことなかったような事例が実際に本物の傷病者として現れて、処置していく隊員の方の間近にすることができると言う経験は、やはりとても大きいと感じました。咄嗟に傷病者の方に言われたことに対応できなかったと言う先輩のお話を聞いて、授業の想定では感じることでできない緊張感を感じながら処置を行なっていく難しさを想像し、不安になりました。しかしそれと同時にとてもワクワクしました。緊張感の中でいくつもの選択を素早く正確に行わなければならない難しさも救命士の醍醐味だと中澤先生のおっしゃった言葉が印象に残っています。先輩方の同乗実習のお話を聞いて、自分の中で一つ大切だと感じたのは、臨機応変さです。自分の持っている知識を、現場の状況に応じて適切に発揮していく柔軟な思考を身に

つけたいと感じました。また、救命士の方の愛護的な対応について話している方が多く、そう言った精神的なケアも大切だと再確認しました。今回の発表会で大切だと感じた部分を同乗実習で実践できるように顔晴ります。

### 櫻井 力翔

今回私は、先輩方の救急車同乗実習の発表を視聴しこれから、私たちが救急車同乗実習を行う上での注意すべきことや抑えておくべきポイントなどについて知ることができたと思いました。また、これからの救急現場でのあり方についても知ることができました。特に印象に残っているのは、自分が救急隊長として隊活動などを行ったときにどうしても視野を広く見ることができずに自分のことで精いっぱいになってしまい中々上手く隊員や機関員などに指示を出すことができないと言っておりました。しかし、今回救急車同乗実習で隊長の行動を見ると焦らずに一つ一つの処置をこなすスムーズに対応していてとてもいいお手本を目の前で見ることができたと感じていました。そのため、私は、実習を行うことは確かに知識を得るために行う事ですが、自分の苦手になっている部分や得意な部分を伸ばす場でもあると言うことを改めて理解しました。そのため、私は救急車同乗実習では、自分の苦手・得意分野の技術スキル・知識を更に習得したいです。自分の成長につながるとても貴重な機会が無駄にならないよう、疑問に思ったことや知りたいことは積極的に自ら質問をして有意義な実習にしていきたいと思っています。

### 三瓶 雄飛

今回、先輩方の救急車同乗実習の発表を聞いてみて先輩方は PowerPoint を用いて簡潔にまとめて、受け手である私でも実際に現場で患者に取り付けて行動しているかのような感覚になりました。それぞれが色々な症例に立ち会い実際に救急救命士として責任を持ち搬送していたので、学年は1年違いますが先輩方の貪欲に学ぶ姿勢とそれを取り込む吸収力にはとても圧倒されました。そしてコロナ禍においても現場に呼んで頂いた消防本部の方達への謝辞も4分という短い時間内に必ず述べているのがとても素晴らしいと思いました。

私自身、救急車同乗実習に行って学びたい事は、救急救命士の一日の流れと状況判断を学びたいと思っています。昨年、病院実習を経験した時に救急救命士の方が患者を搬送をしてきて受け入れを何件かさせて頂いた時に、実習先の病院以外にも搬送してると考えたら救急救命士という職業はタフな仕事なんだと改め

て感じました。指令を受けた後最速で患者に取り付き最短で病院に搬送する。その流れを学んでみたいと思いました。しかし、先輩方の発表にもありましたが、受け入れ先の病院の病床数がいっぱいで受け入れの拒否もあると伺い、多い時は3件ほど受け入れの拒否があったと発表の時に聞きました。その時に救急救命士の方はどう判断を下すのかもとても興味があります。

私自身も先輩方のように貪欲に学び、吸収し、経験した事を私自身の力にしたいと思いました。本日はありがとうございました。

### 新庄 凌也

まずは今回自分たちに同乗実習での貴重な体験を話して下さった先輩方に感謝をしたいです。自分たちは去年病院実習に行かせていただきましたが、その時とはまた違う角度から救急車同乗実習ではいろんなことに気付けるのだと思います。先輩方の話を聞いて最初に思ったことは、みんなそれぞれが目標目的をしっかりと持って実習に取り組んでいるなどおもいました。3年になるとどこで働きたいかというのも明確に考える時期になります。隊活動を見たい、高齢者や外国の方とどうやってコミュニケーションをとっているかを見たい、将来どこで働きたいかを考える軸としたいなどみんながそれぞれ違う目標目的を先輩方は持っていたからこそ救急車同乗実習が充実したものになったのだと思います。自分も地元で働きたいという思いがあるので目標目的を持って実習に取り組むことは見習うべきことだと思いました。そのために知識の幅を広げることが今一番やるべきことだと思っています。

自分が救急車同乗実習で学びたいことは1日の活動の流れを知りたいです。その中で処置の仕方であったり、コミュニケーションの取り方など注目するポイントはたくさんあるのでそこを中心に学べたらと思います。その結果自分の合った職場が見つかることができたらベストだと思います。

### 砂川 雅貴

先輩方の発表を聴講し、今まで行ってきたシミュレーションとは違い現場の安全や、家族への対応を重視しているのだと感じた。また、地域特有のプロトコルであったり、システムによって救急活動を円滑に進めているのだと感じた。また、傷病者の主訴だけでどんな疾患なのかを考えるのではなく、生活背景や現場の状況、環境にも目を向けながら内因性、外因性、外傷を判断する必要があるのだと感じた。一日しかなかった同乗実習でも、先輩方は多くのことを

学んでいたことから、学校とは違う現場のスキルや経験があるのだと感じた。

これから自分が救急車に同乗し、学校で行うシミュレーションや講義からは学べない、現場ならではのスキル、技術、対応、考え、空気感、緊張感を身を負って感じたいと思った。コロナという危険な環境である中、実習を行えたことは先輩方にとって有意義なものになったと感じた。短い時間の中、そこで何かを吸収し自分の糧にしようとする先輩方の姿を見習い、自分も今年の施設見学や臨地実習、来年に行われるであろう病院実習、同乗実習に懸命に取り組みたいと思う。そして、そこで大いに様々なことを吸収し、自分の将来に役立てることのできるようにしたいと思います。

### 関根 颯

今回先輩方の発表を聞いて、練習では味わえないようなリアルな体験をし、傷病者の状態や搬送方法、バイタルなど急激に変化することがありいかなる時も臨機応変に対処できる知識と技術、心構えを普段から身につけられると良いと感じた。今年は新型コロナウイルスの影響で例年とは違い実写期間も短縮され消防機関にも断られ、学内での実習のみだと思われたが、先生方の尽力によりほとんど全員の生徒が実習に参加できたという。今年は方針を変えその生徒の地元の消防機関で実習に臨むなど感染防止を考慮したうえでさまざまな消防機関でのお話を聞くことができた。そのような対応に対して良い点を挙げるとすればその地域独特の傷病者搬送を迅速に行うための救急医療システムやメディカルコールなどさまざまな取り組みが行われており、先輩方の発表を通してそれを知ることができ、自分にとってはとても新鮮な内容だった。先輩方は目的や考察を持って少ない実習期間を有意義なものになるよう工夫していた。来年自分達の代ではどのような実習になるかまだわからないが今の現状に満足せずその時できることを考え、現場でのリアルを少しでも自分の近くに感じ取れるやうな実習を送りたい。

### 外川 航大

さまざまな内容を聴講し、とても勉強になりました。また、発表の仕方やスライドの作り方もとても参考になりました。自分は、救急車同乗実習では、これまでシミュレーションの授業で学習した内容を実際の現場でその現場の雰囲気と共に、処置の活動を学習していきたいです。シミュレーションなどでの学習や理解、技術の習得もとても大切ですが、実際の現場で今までの学習内容を見れることは、復習になると

共に、今後の技術の改善や学習へのモチベーション向上につながると思いました。救急隊の傷病者や家族に対するコミュニケーションの仕方やインフォームドコンセントの取り方などの勉強も勉強したいと考えています。将来の自分に大いにつなげていけるように積極的に取り組み、さまざまな活動を見て、自分の知識、スキルの向上になるように一生懸命学習していきます。

### 平良 豪雅

今回の先輩方の救急車同乗実習の発表を聴講して感じたことは、まず始めに、先輩方それぞれ一人一人が、1日という短い期間であり、またその中でも、出動件数に差が出てしまっているのですが、皆が本当に沢山の体験や経験をしており、そして沢山のことを学ぶことができた実習になったのだと発表を通して感じることができました。また、今回の先輩方の発表は、私たち聴講している側も驚いたことや学びになったことが多くあり、例えば、地域によってプロトコルが違い、私たちが今習っているブドウ糖投与でも、50%を20mlと習っているのですが、20%を20mlであったり、輸液でも、心原性のショックではやらないと習っているのですが、心原性のショックでもやる地域があったり、氷点下になることが多々ある地域では救急車の中でヒーターをつけて資材が壊れてしまったり、輸液でも固まってしまうのを防ぐ工夫をしたり、地域によって色々な取り組みをしている地域があったり、やはり、地域によって道路の状態も違うので、その地域の道路状況を把握する大切さなど本当に学ぶことが多くありました。最後に、今回の発表を聴講して、私が救急車同乗実習を通して学びたいと思ったことは、先輩方も言っていた地域によってのプロトコルの違いや現役で働いている隊員の動き、コミュニケーション力、またどんな気持ちで活動しているのかななどを学びたいと思いました。

### 高椋 悠太

今回の先輩たちの救急車同乗実習の発表を聞いて、病院実習とはまた違う経験ができるのだと思いました。病院は一次に行ったので比較的軽症の人たちなどが運ばれるところでしたが救急車の場合は一次、二次などはなく事件・事故が起こってしまった場合には行かなければならないので初めてだからと軽症の人たちばかりではなく大惨事の事故に出動する可能性があり、実習生と言うことではなく救命士としてなにをしなければいけないのかと考えられる発表があり、今まで心のどこかで実習生だ

からと甘い考えがありました。その考えが変わりました。またコロナ感染防止のため予防もしっかりしてすごいいいと思いました。

救命士は病院より先に傷病者に会い短時間で心を開いてもらいなに起きてどうなったのかを聞き出さなければならぬので、病院よりも傷病者に寄り添い言葉遣いも分けて接しなければならぬのだと思いました。今度行われる救急車同乗実習では、自分はオンとオフの切り替え、傷病者とのファーストコンタクトなどを見たいと思っています。そして自分は将来消防で働きたいので実際の現場の空気などを感じられればいいと思います。

### 多ヶ谷 侑希

今日の救急車同乗実習Ⅱの体験発表会を聴講し、救急車同乗実習Ⅰの流れを大まかに知ることが出来ました。見やすいスライドと説明でとても分かりやすかったです。先輩方の発表を聴いて、それぞれ先輩方が行かれた消防署での地域での特色や、現場で見た症例などを聞きとても勉強になりました。この症例はこんなに大変だった、このような活動をしたなど、各々が体験した症例を共有し合うことによって、このような症例にはこのような活動の流れで行こうなど、初見で対応するよりもその後、同じような症例にあたった時によりよい活動ができると感じました。私が今日の救急車同乗実習Ⅱの体験発表会を聴いて傷病者の方に対してのコミュニケーションや愛護的に搬送をすること、小児に対しての対応や、搬送先がなかなかみつからない問題や、地理調査など、実際に実習をしなければ分からないような先輩方の学んだことを活かして救急車同乗実習で、自分は何をしたいのか、進路についてや目標を設定してから、自分は実際の救急隊の活動の流れ、消防の業務について注目をしていき多くのことを学び多くの命を救う救急救命士を目指す者として、より良い実習にしていきたいと思えます。コロナウイルスが流行している中での救急対応もどのような対策をとっているのかを見たいと思います。

### 田所 璃久

私が先輩方の同乗実習の発表を聴講した感想として、1番に感じたことは同乗実習に参加する前に聴講できてよかったということです。理由として先輩方は2度の同乗実習を体験し、その中で経験や学びをスライドという形でまとめてわかりやすく発表して下さり自分たちが実習に参加する前にどんなことを目的としてどんなことに注意して行けばいいのかが分かりました。また、来年度は自分たちが先

輩方のように壇上に立ち実習発表をするんだということが先輩方を見て強く感じ、後輩たちに少しでも頭に残るようなスライドを作れるように1年間努力していこうと感じました。次に自分が救急車に同乗して学びたいことは多くの先輩がおっしゃっていたように傷病者や関係者の方々との接遇を学ぶこと、実際の現場に応じた隊活動、病院選定の三つを大きな学びの目的として持ちコロナウイルスが流行している時期で実習期間が短いかもしれませんが必ず三つの学びは達成したいと思います。そしてはじめての同乗実習ということで自分が目指す将来像である消防士の方々や消防署の雰囲気、1日の流れを自分の身を持って経験して自分が目指す救命士になるためのモチベーションを高め、今後の大学生活に生かしたいと思えます。

### 田中 友規

本日の救急車同乗実習報告会を聴講させていただいて、消防に勤務する救命士の役割や実際消防士の方たちがどのような事を行っているのかを知るととても貴重な機会になったと感じています。先輩の発表もどれも勉強になるものばかりで症例も一人一人違うのでその分病態の特徴だったり、実際の現場での傷病者への接し方だったり、救急隊の方の活動について、現場で見たものを共有していただいたので多くのことを学ばせていただきました。特に先輩達がおっしゃっていたのはシミュレーションでは基本があってマニュアルにしたがって活動を行なっていくことが多いが実際の現場では想定外の事がたくさん起こりうるので傷病者対応や関係者対応にしてもあらゆる可能性を考えて活動していくのが大事だとおっしゃっていました。特に傷病者対応一つにしても年齢に合わせた言葉遣いで、どんなに些細な情報でも聞ける事は聞いて多くの情報を収集して病院連絡の際などにスムーズに情報を伝えられるように救急隊の方々は活動し、早く傷病者を搬送していかなきゃいけないので知識や判断力がかなり大事になってくると思えます。今年は新型コロナウイルスの影響で救急車同乗実習は学内で行うことになりましたが、次に行われる救急車同乗実習Ⅱでは、現場見させていただける機会があると思うのでそういった時に今回の報告会で聴講させていただいたことも考えながら有意義な実習にしていきたいと思えます。

### 外山 雅大

昨今の日本ないし世界は新型コロナウイルスの影響により多大な影響を受けている。そし

て、我々が目指す救急救命士は医療人であり、コロナウイルスによる直接的な影響を受ける消防、病院機関はかなりの対応に追われているだろう。その情勢の中、救急車同乗実習を受け入れた消防機関はそれ相応の覚悟が視えた。

中でも印象に残っているのは岩崎大翔さんが発表した症例の交通外傷である。担当された16歳男性はロードバイクに乗っており、対抗右折車による事故であった。私も似たような事故を経験をしたことがあるのでとても印象に残っている。この発表で得られたことは交通事故は活動する隊が救急隊だけではないということだ。救急隊の他に警察が駆け付け、事故証明の作成に取り掛かる。2つ以上の機関と同じ現場を共有するのでコミュニケーションがとても重要になることを学んだ。

救急車同乗実習体験発表会を聴講して3年次に実際に救急車同乗実習を行うイメージを掴むことができた。私は、救急隊が病院選定までにどのようなアプローチをして、疾患を推測するのかを学びたいと考えている。救急車同乗実習をより有意義なものにするためにしっかりと準備をしていきたい。

#### 橋詰 文成

先輩方の救急車同乗実習の発表を聴講させていただき、様々な症例が出てきて、とても勉強になりました。私が傷病者と接したのは病院実習が初めてなので、病院とはまた違った緊張感で救急車に乗り、傷病者のもとに行き処置を行う事を早くやりたいと感じました。先輩方が救急車同乗実習で体験しその体験を得た人にしか話せない話が多く、とても興味深かったです。また、私が来年度に発表する際には聞いている人を意識し、聞いてくれている人たちがプラスになるような話をできるようにしていきたいと感じました。自らの知識や経験が不足していたと話している先輩が多いように感じました。経験はどうしても現場に出ないと得られませんが、知識は自分自身で高めていく事ができるものなので今のうちから勉強をしておこうと決意しました。私が救急車に同乗して学びたい事は、傷病者に対する接遇やコミュニケーション、家族との会話、現場に行く途中には何を考え現場ではどのような立ち振る舞いを行うかなどです。知識や技術を学ばせていただくのはもちろんのことですが救急車に乗り普段活躍している方たちにテキストなどには記載されていなくその場でしか学べない事を学びたいと考えているからです。同乗実習に向けて普段からの努力を怠らないようにしていきます。

#### 馬場 俊

先輩方が言っていたようにまじかでプロフェッショナルの救急対応をみて、自分のスキルを磨きたい。小川先生が言っているように、「体験」は今できないけど、様々な症例報告を聞くことで多くの「経験」をすることができると、そしてこの経験を今後の自分のモチベーションに繋げていきたい。一通り、救急救命士の特定行為を勉強し終えたので、実際の現場のスピード感や緊張感、恐怖心を味わい、それに屈しないメンタルを作り上げたいと思った。実際の体験、経験によって得られるものは大きく、将来の明確化ができる。また、消防の方々と良好な関係を築き、救急隊、救助隊の訓練にも参加してみたいと思った自分は今のところ将来、救急救命士の資格を持ったレスキュー隊になるのが夢であり、それを実現するためにも高いモチベーションで道場実習に臨みたい。

#### 濱 京志朗

私が先輩の同乗実習の発表を聞いて、感じたことは、主に二つある。一つ目は、地元の消防本部へ実習に行きたいと感じたことである。

先輩方の中には、地元の消防本部へ実習に行く故郷実習を行った方が多くいた。私は、将来地元の消防本部に就職したいと考えているため、ぜひ、地元へ実習に行きたいと考えている。私の地元は、長野県の諏訪市であり、諏訪市の消防体制は諏訪市・岡谷市・茅野市・下諏訪町・富士見町・原村の6市町村で消防業務を諏訪広域行政連合で共同処理しており、平成11年4月1日より諏訪広域消防本部として消防業務を行っている。諏訪地域の救急医療体制は、諏訪市にある諏訪赤十字病院が三次救急医療機関とされている。この地元の救急医療体制や広域消防についてや、地元の消防署の雰囲気などを知りたい。このような故郷実習は大変素晴らしいことであり、地元での就職を考えている私にとって本当にありがたい企画であると考えます。救急車同乗実習は、この諏訪広域消防へ行くことが出来たら幸いです。

#### 原 千虎

今回、先輩方の救急車同乗実習の発表を聴講して多くのことを感じ、とても勉強になりました。とても分かりやすい発表が多く、聞いてとてもイメージがわきやすく、わかりやすい発表でした。どの先輩方も傷病者第一に考え活動していたという印象を受けました。高橋健さんのお話の中では、傷病者を家族と同様に考えるとおっしゃっていました。救急隊としての責務の重さやそれぞれの役職などの立場など責任感がとてもすごいと感じました。私も将来

は消防士になり、救急救命士として救急車に乗ることが目標です。残りの大学生活の中で責任ある行動を心がけようと思います。また、今学校で学んでいる活動の流れだったり、手技がこのような形で生かされてくると知り、さらに勉強のモチベーションが上がりました。私は来年度、実際の現場での情報共有や傷病者に対しての言葉のかけ方などに着眼して勉強していきたいと考えています。新型コロナウイルスの影響で来年度も実習が思うようにできるかという不安はありますが、今自分にできることをしっかりやって、万全の準備をしていきたいと思っております。改めて今回先輩たちの発表を聞くことができるとてもよかったと感じております。ありがとうございました。

### 樋口 裕平

まず先輩の方々の発表を聞き感じたことは、しっかりと準備・対策をしていくことで実際の現場に行ってもある程度対応できるのでは思いました。

特に自分が強く感じたことは、大学で行うシミュレーション実習をいかに本当の現場と照らし合わせるか、緊張感を持って行えるかで救急車に同乗した時の行動が変わってくるということです。しかし、大学で行う授業ではわからない地方特有のプロトコルや、対応の仕方もあるので、そういった場合はその現地の消防で事前に確認して行くことが必要だと思いました。

私が救急車に同乗したときに学びたいことは、二つあります。一つ目は地方特有のプロトコルです。私は新潟出身で関東のプロトコルとどのような違いがあるのか、なぜ違うのかなど現地の消防機関でぜひ確認してみたいと思います。二つ目は傷病者に対しての対応の仕方です。同じ傷病者でも小児・認知症・外国人などさまざまな方がいる中で、どのようなコミュニケーションの取り方で情報を聞き出し対応しているのかなど、リアルな現場を通じて学んで行きたいと思っております。

### 平井 良賢

今回救急車同乗実習Ⅱを経験された先輩方の貴重な発表を聴講し、まず初めに今回の救急車同乗実習は自分の地元の消防署に実習に行けた先輩方が多く、地元の消防署に行けることは将来の就職のことを考えることができるため、来年度も地元の消防署に実習に行きたいと思っております。そして多くの先輩方が今回話されていたことは、消防職員の業務はインターネットや様々な教科書などで調べればいくらでもわかりますが、実際に勤務されている消防職員

の方と一日を過ごすことによってあまり知らなかった消防の業務や細かい業務内容をより知ることができたと発表されていたので、私もこの後にある救急車同乗実習Ⅰの施設見学で学びたいと感じました。そして今回の発表で特に印象に残ったのは、様々な地域の消防署のプロトコルについてのお話を聞かせていただきましたが、私は今までプロトコルの存在は知っていましたが、正直、地域ごとにプロトコルの内容に差はあまり無いであろうと勝手な想像で思い込んでいましたが、実際先輩方のお話を聞く中で例えば、富山県東部消防本部の低血糖傷病者に対するブドウ糖投与のプロトコルでは救急救命士標準テキストでは50%ブドウ糖20mLを2本投与であります。富山県東部消防本部では、20%ブドウ糖を3本投与することや、それ以上に私が驚いたことは印西地区消防本部では医師に対してしっかりとした説明が行えるのであれば、心原性ショックに対する静脈路確保が行えることでした。以前、救急病態、症候学の講義で中澤先生が心原性ショックに対しては病院では輸液を行うことを教えていただいたり、そして前回の鈴木先生の講義でも、病院では右心不全の傷病者に対しては、大量の輸液をすることを教えていただいたので、このようなプロトコルが将来的に様々な地域で広がっていくことが予想できました。

そして先輩方が大学でのシミュレーションなどの隊活動と実際の現場との大きな違いで、多くの先輩方がおっしゃっていたことは、現場の安全確認をしっかりと行うことの重要性を教えていただいたので、しっかりと意識して今後学習していきたいと思っております。

本日先輩方から貴重な体験のお話を聞くことができたのでその経験を今後の学習に活かしていきたいと思っております。そして私自身は、来年可能であれば地元の消防署に実習に行き、地元のプロトコルや救急医療体制について学びたいと先輩方の貴重なお話を聞くことでより強く思いました。

### 廣幡 優清

救急車同乗実習体験発表会では、上級生が実際の現場で得た貴重な体験談を聴くととても良い機会の発表会だと率直に感じました。

午前の部が終わったあとに、小川先生からのお言葉で「現場での症例件数が多かった人、少なかった人がいるが、少なかったからと言って下を向くのではなくこの発表会をしっかりと聴講することによって多くの症例を体験したと同じ価値がある」とおっしゃっていて、上級生の体験談をただ聞いているのではなく、1つでも多く何か自分の力になるような有意義な時

間を過ごそうと改めて思いました。やはり、全く同じ現場というのは、絶対になく、年齢や場所、時間、体格、性別など様々な状況の中で活動する救急救命士というのはとてもかっこよく、今回で消防での救急救命士という職業に憧れを更に強く持つことが出来ました。上級生も発表の中で何人か「進路が見えてきた」という風におっしゃっていましたが、実際の現場に出てみるにより、大学の授業ではなかなか味わうことが出来ない緊迫したリアルさを感じる事が出来る実習だと考えているので、自分の将来に繋げることが出来るように、救急車同乗実習Ⅰからしっかりと学んでいこうと思いました。

細かい目標としては、今の時点で3つあり、家族対応(IC含む)、病院機関との連携、職場の雰囲気や仕組み。この3つはとても重要だと思うので、来年度最低でもこの3つは学べるように準備していきたいと思えます。

### 堀田 俊介

今回の先輩方の話を聞いて、救急車同乗実習では救急搬送が必要なものも不必要なものも含めて様々な症例に遭遇することができという事が分かりました。それを聞いて思ったのが、救急要請があつて最初から不必要なものだと判断するのではなく、現場に着くまで、または現場に着いてからも最悪を想定して行動をしなければならぬと感じました。最初から症状を軽く見てしまつて、それ相応の準備しかしていないと助けられる命も助けられなくなつてしまうかもしれないからです。そして、救急車同乗実習では病院実習とはまた違った緊張感を味わうことができる場所だと感じました。

病院実習、院内での実習では、救急隊からある程度の傷病者の状態が報告されて、それに対応し、予測をつけてから傷病者に接触することができますが、救急車は一般の人からの通報がほとんどであつて、ある程度の情報すらも無い中で対応しなければいけないのはとてもない緊張感を持って対応しなければいけないことだと感じました。

傷病者対応だけでなく、周囲の安全を確認しながら行動しなければいけないし、人から情報を聞き出すなど、今までやったことが無い事を、緊張感がある中で体験出来る、とても将来に繋がる実習だと思えました。

### 松本 拓磨

本日の救急車同乗実習Ⅱで行われた体験発表会で、学んだことが沢山ありました。その中でも、特に印象に残ったのが2つありました。

1つ目は、感染対策についてです。新型コロナ

ウイルス感染症が流行していて、発熱がある傷病者は病院に搬送先が決まらないため、傷病者や、その家族は、パニック状態に陥ってしまいます。パニック状態にならないためにも、救急救命士が、メンタルケアをしなければなりません。そのため、来年の救急車同乗実習をする時には、傷病者に対する救急救命士さんのコミュニケーションの取り方を学びたいです。

2つ目は、この実習で沢山のことを得ることです。今回の救急車同乗実習は、1日だけでしたが、その1日で6つも学んだことがある先輩もいらっしゃいましたので、自分が、実習をする時は、7つ以上学べるようにしたいです。

来年自分が救急車同乗実習をする時は、まずは目標を5つ以上立てようと思えます。そして、救急救命士さんの傷病者に対するコミュニケーションの取り方を見たいです。そして、救急隊活動を沢山学びたいと思えます。また、救急救命士の1日の勤務内容や、消防士の訓練内容、レスキュー隊の活動なども見学して、将来の目標を立てていきたいです。

### 三浦 誠人

私は今回の救急車同乗実習を聴講して、率直な感想として命の尊さを経験することができました。私自身、幼少期にタバコの吸い殻を誤飲し、生死をさまよつた経験がある。この経験から、傷病者の抱える不安や苦痛などは普段の講義や、シミュレーションの授業で役を演じただけでは理解することは到底できないと考えている。しかしながら、今回の発表会を聴講して、先輩方の多くは対応した症例に関する座学だけではなく、途方もない不安を抱えた傷病者に対する接遇についても話されていた。その内容には傷病者の生命の危機に瀕している切迫な状況が明確にまた詳細に話されていたことから、傷病者のリアルな心の声を聴くことにつながつたのではないかと感じた。また、次年度からより一層勉学に力を入れていきたいと感じた。

私が救急車に同乗して学びたいこととして、各地域のプロトコールに沿つた隊活動はもとより、実際に生死をさまよつた途方もない不安を抱えたことがある自身の経験を生かすためには、より一層の傷病者に対するコミュニケーションの図り方を現役救急救命士の方々から学びたいと思つております。またその学びから一歩進んで、傷病者の心の声に傾き、肉体的苦痛だけでなく精神的不安を和らげられるような救急救命士になれる一つの要因になればと思つております。

## 宮島 健

先輩方の救急車同情実習の発表を聴講して、実際の現場を見るのが何よりも勉強になるということが分かりました。百聞は一見に如かずという言葉の通り、交通外傷などに言った先輩方や、家に行かれた先輩方は、搬送経路や、車の状態などの状況評価の点について、実習でやるよりも具体的なイメージができ、その中で救命士さんたちの臨機応変さについてしゃべられていることが多かった印象です。

私は来年度救急車に同乗した際にはこの状況評価について深く学びたいと思いました。

実習室で模擬的な隊活動をやることが多いのですが、狭隘な場所などを具体的にイメージするのが大変だと感じるからです。実際の現場や各家庭での隊活動を見させていただくことにより、普段の練習がより良いものになると思います。

さらに、先輩方の話の中でよく話題に上がっていた、家族や傷病者の方に対する接遇についても学びたいと思いました。どのような言葉づかいで接すれば傷病者、またその家族に安心感そして納得してもらえるのか、イレギュラーなことが起きた時にどのようにすればいいのかなどを学びたいです。

以上の状況評価、傷病者やその家族に対する接遇について知識を深められるような救急車同乗実習になればいいなと思いました。

## 向田 隆也

先輩方のありがたいお話本当にためになりました。今年はコロナ禍ということで例年とは違う開催にはなっているとは思いますが、みなさんそれを感じさせないくらい素晴らしい発表でした。

例えば、今現在のコロナ禍での消防業務や、救急業務です。自分たちは施設見学にもいけてないのでわからないところではあったのですが、先輩方のおかげで理解を深めることができました。やはり、高熱(37.2以上)は病院選定が難しくなったり病院側も受け入り拒否が相次いでいるそうです。その中で傷病者やその関係者は絶対に不安を抱えています。その中で自分たちが救急隊になったら自分たちの一声で安心させてあげられるようなICを心がけたいです。先輩方本当にありがとうございます。自分も来年早く行きたいです。

## 村田 篤思

先輩方の救急車同乗実習を聴講し、まず思ったことは救急業務についてのことです。救急業務についてはあまり理解ができていなかったのですが、この発表を聴講して現場での大切な

ことが理解することができました。それは、PA連携の出動ではポンプ隊とどの様に連携して傷病者を搬送するか、などといった連携です。これはポンプ隊だけとは限らず、同じ隊の仲間や警察との連携も大切であるということがわかりました。他にもIC(インフォームドコンセント)の重要性です。近年、超高齢化により高齢者の搬送が多くなっているのが現場です。その高齢者の特徴の痛みの閾値が高くなっていて、こんぐらい大丈夫という高齢者が増えてきています。しかし、救急隊が傷病者の身体の状態を説明することで、搬送することで傷病者の命につながるということがわかりました。また救急要請の軽症、中等症の割合がものすごく高く、軽症患者の中でも不搬送でいいのではないかと思う症例があり、やはり今問題となっている救急要請の現実というものをこの発表を聴講させて頂いたことによってより感じる事ができました。

自分が救急車に同乗して学びたいことは、シミュレーションでは感じられない、救急現場での緊張感であったり、病院とは異なる傷病者への接遇についてです。やはり、救急現場は病院実習ほど3Sが確立されていない状況です。その中で現場はどの様に対応するのかということも学びたいです。

## 柳林 祐汰

本日の発表会を聴講し、コロナウイルスが流行している中で搬送の難しさがあると思いました。出動し、熱がある傷病者はコロナウイルスが原因ではなくても、受け入れが難しい状況があることがわかりました。熱がある場合は、傷病者の家族に行動歴を聴取するなどがあることがわかりました。改めてコロナウイルスの怖さがわかりました。また、各消防署により、特徴が全く違うと感じました。松戸市消防局では、署長の方が女性で、女性が働きやすい職場であるということがわかりました。

消防署でも、女性が働きやすい職場があるということはとても良いことだと感じました。他にも小田原市消防本部では、とても管轄が広いということがわかりました。上尾市消防本部では、ドクターカーの運用や消防音楽隊があったりなど、様々な消防局があると感じました。我孫子市消防本部で実習を行った、川島さんの発表で印象に残ったことは、全身痛がある傷病者です。このような傷病者では、救急車の運転を丁寧にする事や、搬送の際に極力体を動かさないようにするなど、傷病者を思いやる事が重要だということがわかりました。また、傷病者を自分の家族だと思い、活動することの重要性も学ぶことができました。

コロナウイルスが流行している中、救急車同乗実習が行われたことは、とてもありがたいことであり、先輩方の発表を聞くことができ、とても勉強になりました。3年生で行われる救急車同乗実習Ⅱで、自分も先輩方のように経験を積み、成長したいと思いました。本日はありがとうございました。

#### 山下 慎太郎

今回の先輩方の発表を聞いて実際医師の問診、処置を目の前で見ることができるのがとても興味がありました。その他にも車内の構造、配置、病院実習でも救急車に乗ることはありましたが、それは病院からまた違う病院まで運ぶための救急車だったので実際に出動する救急車にはどのようなものがつまれているのか、処置をしている最中を目の前で見たいという気持ちもありますし、揺れてる救急車の中でどのような工夫をして処置をしているのかな学びたいことがとてもたくさんあります。また来年行くにあたり今回の先輩方の発表のように分かりやすく説明できるまで落とし込んでみたいのです。

#### 山本 悟史

本日の発表会は素晴らしいものでした。まず1番に感じたことは、先輩方の発表が上手で聞きやすいということです。全体的に聞きやすく内容もよく入ってくる発表だったのでさすがだと思いました。人前で自分の意見を発表する能力は、今後自分が社会に出ても必ず使うスキルだと思うので自分もしっかりと人前で話せるようになりたいと思いました。もちろん、実習の内容も一人一人本当に充実した実習だったんだろうと言うのがよく伝わりました。実習の期間は短いものだったかもしれませんが、得たものは本当に多いと思いました。

また、関東だけでなく、日本全国の救急医療の現状を今回の発表会で知ることが出来ました。地域や自治体によってプロトコルも違う上に、自治体独自のやり方など実際に活用している消防に実習に行けるのは素晴らしいことだと思いました。また、そのような事も含めてこの発表会でみんな共有、周知することは、集団にとっても有意義なものだと感じました。自分も今後の実習の機会では、よりたくさんの方の事を学びたいと思います。

#### 吉野 雄大

3年生の体験発表会を聴いて、現場では学校だけでは学べないことがたくさんあることが分かりました。印象に残っているのは交通事故

の現場での状況評価の場面です。実際の自転車や自動車の破損具合から推測される事故の大きさ、自分たちの安全を守るための行動、道路上で行われる救急隊活動などは、大学の授業では絶対に再現できないものだと思います。

先輩の話に軽傷が多かったように感じたもありましたが、実際調べてみると救急要請の約半数が軽傷というデータがありました。約半数という数字はとても多いように感じますが残りの半分の中には命に関わる重症患者もいるのは事実です。救急要請の司令内容では傷病者の状態は良好のように思えても、何があるかわからないので心身ともに万全の準備をして向かうことが大切だと思いました。

消防署によっても救命の質の向上をはじめ、教習所での救急車の運転の練習など、スキルアップのためにさまざまな取り組みが行われていることに気がきました。次年度の救急車同乗実習Ⅱに向けて自分もしっかりとスキルアップに励みたいと思いました。

#### 六反田 朋也

今回の救急車同乗実習の先輩方の発表を聞いて感じたことは地元の消防署にも実習地として行かれていたのは驚きました。印西地区消防本部や松戸市消防局などは将来就職活動をしていく上で考えていた場所でもあるので聴講できて良かったと思います。各地域によってプロトコルが違って、その違いに着目して聞いていると面白さをありましてし、もっと色々な地域のプロトコルを知りたいと感じることが出来ました。自分が救急車同乗実習に行かせてもらって学びたいことは今、シミュレーション実習で隊活動を行っていますが、自分たちと比べて、どのように動いているのか、どのように方針を決めているのかをよく観察し、自分のものにしていきたくと思います。実習で吸収できることは山ほどにあると思うので存分に吸収し、知識を深めたいと思います。実習地の施設の特徴や地域のプロトコルを教えてくださいたいと思っています。

#### 石黒 夏帆

今回、先輩方の発表を聞いて学ぶ点がとても多く、長い時間ではあったものの集中して聞くことができました。またコロナ禍ならではの対応や苦勞を知ることができたのは、自分自身が実習に参加したわけではないですがとても貴重な経験になりました。

まず傷病者と接するにあたり、事前に通報された指示内容よりいくつかの症例を想定できると思われるが、そこでストーリーを作らずにあくまでも想定は想定とし、傷病者や周囲の状

況の観察、関係者からの聴取や問診などを丁寧に行うことが重要だと感じました。しかし、すべての傷病者に幅広く観察すると時間がかかってしまうため、ある程度観察や問診内容を絞ることも大切であると学びました。また、痙攣などで原因が分からない場合に関しては、麻痺の確認などを行い緊急例を除外する観察も有用なものであるため、選択肢を消すための観察などについて調べたいと思いました。

次に、どの消防署にも当てはまる事で早期搬送を重要視していることが分かりました。コロナの影響により、車内収容から病院選定に時間がかかってしまうことは多いと感じられましたが、傷病者接触から車内収容までの時間はどこも早く適切な観察や処置が行われているのだと感じました。しかし、同じ日本の中でも心停止からの社会復帰率に差がでていることに関して疑問があり、プロトコルや日頃の訓練など都道府県間で学べる点を共有し、日本全体として社会復帰率を上げることができれば良いのではないかと感じました。

さらに、白井市での取り組みとして救急医療情報シートの利用はとても便利なものだと感じました。氏名や生年月日だけでなく、既往歴や服用薬など細かく記入することができる点、また一家に一台は必ずあると思われる冷蔵庫に収納することを指定している点は、この救急医療情報シートを有意義に使用することあたりとても重要であると感じました。意識障害により問診ができない傷病者はもちろんですが、高齢化が進み認知症患者が増えている近年の日本においては白井市だけでなく高齢化が顕著に現れている地域を優先的に普及していくことができれば良いのではないかと感じました。

新型コロナウイルスの感染が拡大している特殊な環境下での実習となり、北海道や愛知など実習先の範囲が広がりましたが、それによりそれぞれの地域の特色から気をつけていることなどを学ぶことが出来て良かったです。特に、北海道の消防局では冬の時期は気温が氷点下になることから、乳酸リンゲル液の凍結防止などを目的として救急車内をヒーターで常に温めておくといった対策を取られているのは、北海道などの寒い地域ならではの事だと思っているので知れて良かったです。また、日本のみならず世界の気候の特色なども踏まえて、地域ごとにどういった対策が取られているのかも知りたいと思いました。

#### 植松 望実

先輩方の貴重な発表ありがとうございました。来年履修する予定の救急車同乗実習Ⅱについて学び、イメージする事ができました。先輩

方の経験を聴講することにより、イメージができ救急車同乗実習Ⅱに臨む事ができるのは、不安の軽減につながり、とてもありがたいです。たった1日という短い期間の中でもCPA 傷病者や転院搬送等イレギュラーな事を目の当たりにし学ぶ事ができ、大いに有意義な実習であったと思います。また、それを聴講している側に共有する事で聴講側の学びにつながり、とても良い時間でした。現場を見て経験し、感じるからこそ、今のプレホスピタルケアの現状であったり、改善したい部分が見えるのだと思いました。印象に残った3年生の発表の1つとして、CPA ではないのに、口頭指導により一般市民にCPR をする事態が起こったと報告されていました。意識がないという判断には人それぞれであり、医療を学んでる側で有れば意識なし＝JCS300 であるはずが、市民によるとまた違った判断をするのだと考えられ、とても興味深い内容でした。間違えてCPR をやられた傷病者はその後どうなったのかも気になる場所であり、先輩に聞いてみようと思います。たった1日ではありますが、救急車同乗実習を実施したことにより、現場を見て、学んで、考えて、改善につながるのだと思います。来年に向けて、知識を身につけ、有意義な救急車同乗実習Ⅱを経験できるよう頑張ります。そして、先生方が学生のために動き回ってくださっている事、多くの方に支えられて実習ができる事を理解と感謝をして実習に臨みたいです。

#### 漆原 舞香

今回、先輩方の発表を聞いて、同乗することでしか学べないことが沢山あるんだなと思いました。例えば不搬送という事があったり、実際に目の前で倒れてCPAになるといことに出会う確率の低さ等、普段の講義だけでは学べない部分について触れることが出来、自分のスキルだけではなく、知識も上げることができるので、自分が実際に救急車同乗実習を行うことについては不安でしかないがその反面、楽しみだとも思えました。

前回行った病院実習では、搬送されてきた患者を見る立場でしたが、次行う同乗実習では限られた情報の中でしか考えることが出来ず、何が予想されるか、また、なにを元に準備をすればいいのか等違った視線で考えなくてはいけないこと事が増えるので今の知識では確実に足りないと感じることが出来ました。ですが、その中でも自分でも出来る事が沢山あると思うので、今のうちから知識を蓄えていきたいと思っています。

私は、毎日同じことを継続するということが苦手なのですが、年が明け国家試験に対しての

意識が上がり、毎日国家試験をA問題からD問題まで1問ずつ解くということを実施しています。毎日コツコツすることで最近新しいことを沢山覚えることが出来、楽しさまで感じる事が出来ています。これをこれからも継続していきたいと思います。

### 江黒 舞

まず、3年生の同乗実習の発表を聴講した感想としては一人一人個性があり違うなと思いました。いくつか同じ場所で実習をさせてもらう人を多く見受けられましたが、一人一人スライドも内容も個性豊かで全く違うものだなと感じました。場所は同じでも傷病者が違うし、お互い思った率直な感想や考えを述べているので1日を通してとても濃い時間になりました。また、ひとつしか違わない先輩たちがとても格好良く見えました。たったひとつなのに身振りや堂々とした態度、発言などすごく尊敬したいと思えるところでもありますし、自分も来年後輩にそう見られたい、そうでありたいと強く思います。中でも最も1番印象に残っている点としては、自分の実習先での体験談を明確に覚えていて自信を持って答えているところです。少し実習から期間が空いていますが質疑応答の際に、テキパキと答えていて日頃からメモを取る習慣をつけようと思います。

また、来年私自身が同乗実習で学びたいことは、救急救命士のメンタルの強さと、いかに迅速な対応をしているところを生で感じることができればいいなと思います。救急隊の邪魔に最小限ならずに署内を隅から隅まで調べ上げたりして自分の夢を明確に出来たらなと思います。だから、そのためにこの一年間で知識を身につけて少しでも濃い実習にしたいです。本日はありがとうございました。

### 大津 葉子

今回の救急車同乗実習体験発表会を聴講し、体験先の消防機関によって異なる特徴や症例がある中で先輩方が救急車同乗実習を通して学んだことや現場でしか分からない雰囲気や体験をどのように行なっていたのかを知ることができました。特に今年度は新型コロナウイルスが流行し、発熱の傷病者への対応や感染症対策、病院との連携などを知ることができ、さまざまな影響があり大変な状況ではあるけれど、このような情報を知れるのは今回限りかもしれないためとても印象的でした。

そして、私が救急車同乗実習を行う際には、現場の雰囲気や必要な情報を会話から違和感なく引き出すようなコミュニケーション方法を学びたいです。シミュレーションの授業では

体験できない実際の傷病者の状態を見て観察し、傷病者や関係者、必要のある人とのコミュニケーションをとって情報を集め、疾患を考えていくというような流れを実際に見て体験したいと今回の先輩方の体験発表会を聴講し感じました。

今回の救急車同乗実習体験発表会を聴講し目的を持って実習を行うということが大切だなと感じたので、しっかりと具体的な目的を持ち実習に行くことができるように今からできることを行い、準備していこうと思います。

### 香月 綾乃

本日、先輩方の救急車同乗実習の発表を聞いて、たった1日であっても多くのことを学ぶことのできるとても充実した実習であったのではないかと思います。また、実際の救急隊の方々の現場でのスピードや、判断していたこと、考えていたことなどの一部を発表の中で聞くことができたのですが、今の自分には到底できないことばかりで、日々成長を重ねていかなければならないと感じました。そして先輩方の発表はスライドも話し方もとても分かりやすく、緊迫した現場であっても様々なことを考え、学ぶ姿にとっても感銘を受け、先輩方のように頑張りたいと思いました。

今年は新型コロナウイルスの影響で2年生は学内実習と施設見学のみになってしまったのですが、来年は救急車同乗実習で地元福岡の消防局に行き、福岡県の救急医療体制について学びたいと考えています。先輩方が地元の消防機関で救急車同乗実習を行った話を聞いて、福岡県の救急の現状が気になって調べてみたところ、全国の中でもトップクラスの救命率でとても驚きました。ネットでは詳しい仕組みはあまり知ることができなかつたので、実際に行って自分の目で見て学びたいと思いました。また女性救命士の強みは接遇の点で、男性と比較して威圧感や恐怖感を与えずらいということではないかと思うので、そういった女性救命士の活躍する姿も見て、自分の武器を見つけたいと思いました。

### 齊藤 晏加

今回、先輩方の救急車同乗実習の発表を聴講させて頂いて、この発表を聴ける機会というのもまた貴重な体験だと感じました。

私達2年生は、まだほとんどの人がスライドを用いた全体へ向けての発表を行ったことがありませんが、各々が工夫し、説明し易く、聴講している人達にも分かりやすい様なスライドを用意して、スライドに書いてある事だけで無く、自分の言葉で説明を加えながら発表を行

なっていました。そして、緊張しているかと思いますが、堂々とした発表をしていて、すごく興味や関心を持って聴くことが出来ました。様々な消防局での体験を聴くことが出来て、各地域、県や市町村ごとにプロトコルの違いや消防署内の設備、救命士の人数、対応の仕方の違い、訓練の方法が分かりました。また、私は女性なので女性の先輩方の発表がとても自分の為になりました。女性が増えていく今、女性が働きやすい設備を整えた消防署がある事や、女性隊員と男性隊員とのチームで連携をする際、女性の特性と男性の特性を活かして連携しているのもとても良いと感じました。このように、もっと男女それぞれ活かした活動を行ってあげれば良いと思います。

来年自分が救急車同乗実習Ⅱを履修し、救急車に同乗した際には、救急隊の連携方法や処置の行い方、女性がいる消防署でしたら女性の活躍というのを学びたいと思いました。

#### 鈴木 紀子

実際行ってみて学んだことや実際生体を見て学んだことが沢山あったと言ってる先輩が多くやはり目の前で学ぶことで様々なことが学べることがわかりました。また、ICのとり方だったりどのような時間帯に通報がありどこで起こったのかなどからその人の生活背景などが分かることも知ることができました。通報の内容から分かることも沢山あり推測しながら現場に向かうと言うことも大切であり、現場で円滑に対応することができるようになるのではないかと思います。小学生や中学生の場合先生などに大袈裟に伝えてしまいそのまま通報してしまうことが多いかなと思っていて、もし通報を受けた場合は話せる場合は本人からしっかりと話を聞いていくことも重要であるとおもいました。しかし、それだけを信じてはいけないと思うので身体所見を見ることも大切であると思いました。そして、思春期などだと先生や両親に上手く話すことが出来ず言えないことだったり精神のメンタルからくる不調だったりということが考えられるため、思春期の傷病者などには精神的ケアもしっかりしていった方がよいのかなと思いました。先輩達の素晴らしい話を聞き私も救急車同乗実習に行った際は参考にしようと思えることも沢山ありさまざまな学びがありました。また勉強にも力を入れていこうと思うことが出来ました。

#### 高部 遥夏

今日先輩方の同乗者実習の発表を聴講してこれから私たちが行う消防署の雰囲気やどん

なことを学べるのかをたくさん聞くことができて、イメージを掴むことができました。先輩によってはCPAに遭遇したりすることもあるので、参加する前には覚悟を持って参加しないと気持ちで負けてしまいそうだと私は思いました。今期の同乗者実習はなくなってしまったけど、3年生になってコロナウイルスが終息して私たちも1日ではなく、しっかりと同乗者実習に参加できるような世の中になっていることを願って今できることをコツコツとこなしていくのが大事だと思いました。発表のためにスライドから練習をわかりやすく作ってくれた先輩方にも感謝したいです。

#### 田上 慧

先輩方の発表を聞いて、分かりやすく、まとまりのあるスライドの作り方や、人前で発表する際の話し方、言葉遣いなど、参考にさせて頂きたいと思いました。特に発表のやり方で印象に残ったものとしては、大笹さんの見やすいスライドや聞き手に目線を向けながらの発表でした。また、それぞれの実習先に特徴があり、一人一人経験された事も全く異なっていた為、貴重な体験を聞かせて頂き、とても良い機会となりました。症例報告の中で1番印象に残っているものとしては、長岡さんの女性救急隊長の11歳少女に対する傷病者対応です。不安そうにしていた傷病者に対し、目線を合わせ、手を握りながら会話をし、分かりやすい言葉で安心感を与える対応であったこの事でした。私も安心感を与えることのできる救急救命士になりたいと思い、私が救急車に同乗させて頂いた際には、現場での傷病者や家族とのコミュニケーションの取り方、女性救命士の現場での働きなどを学びたいと思います。また、PA連携や警察との情報共有、事故現場での安全管理、コロナ禍での救急対応の仕方など、現場でしか学べないことを学べたらと思いました。

#### 福永 さやか

私は大きい都市であればあるほど有意義な同乗実習が行えると思っていました。ですが、今回発表を聴きどこで同乗実習を行うかではなく自分自身が与えてもらった場所でどのような活動をするのが大切ということがわかりました。また同乗実習で消防署に行けたとしても同乗できないことがある。その時に救急車に同乗できない分消防署で傷病者のこと考えたり、消防署という環境に入れることで学べるものがあるのだと感じました。いつ指令が入るかわからない中、精神的・体力的にキツイと感じても1番キツイのは傷病者であること。だからこそ思いやりの感情を持ち傷病者に寄り添

うことの出来る救急救命士になるという発言を聴き、自分はなんのために何が出来るのか自分も寄り添える救急救命士になりたいと思えました。場所や人、環境が様々で自分が思った疾患名と違う場合でも傷病者と接触して得られた結果からフィードバックすることも大切だと気づくことが出来ました。私が同乗実習で学びたいことは救急車内での傷病者及び傷病者の御家族とのコミュニケーションです。傷病者の処置を行いながら御家族の不安な気持ちに寄り添うなど傷病者と御家族が大変不安定な中、救急隊としてどのようなことに気をつけコミュニケーションをとって活動をしているのかを学びたいです。

### 丸山 風花

午前の部の先輩方の救急車同乗実習Ⅱの発表を聞かせていただきました。まず、現在新型コロナウイルスが大流行し、お忙しい中多くの消防署が実習を受け入れてくださっていることにとっても感動しました。他の学校では病院実習などが中止となっているところもあるにも関わらず、「現場で体験する」という学校や自分だけでは学ぶことの出来ない機会を作ってください感謝しかありません。今年、来年と私も救急車同乗実習に行かさせていただく予定ですが、貴重な体験を無駄にしないよう、また失礼の無いように取組もうと改めて思いました。

先輩方のスライド発表を見させていただいて感じたのは、色々な症例を見ても高齢者が圧倒的に多いことでした。日本は医療技術が発展し高齢化社会ですが、ほとんどの症例が60~80代の傷病者ばかりで驚きました。

日本では現在も医療技術は発展を続けており、このまま少子高齢化社会が悪化すると考えられています。私が職に就く頃には今よりも高齢者傷病者は増えていると思われます。そのような中、実習に行き実際に高齢者傷病者への対応を間近で見させていただくことはとても良い勉強、経験になると思いました。

私が実習に行かせていただく際は、せっかくの機会を無駄にせず自分の糧に出来るようにしたいです。

### 嘉納 真依

今回先輩方の発表を聴講し、今後目的を明確にして学習を進めようと思った。また、基礎だけでなく、イレギュラーな事態にも冷静に対応できる柔軟性を備えられるようにしたい。

例えば、今回発表の中で多く挙がっていたような傷病者や関係者とのコミュニケーションについて。各傷病者の考える治療方針や年齢な

どバックグラウンドを読み取って考慮したり、激しい苦痛を持つ傷病者には容易に回答できる質問に切り替えること。学内学習からは想定できないような事態にも、最善の選択ができるようになりたい。そのために普段から視野を広げて、起こりうる事案を想像してその時々によつてどのように対応するかを考えていこうと思う。

また、地域によって交通状況や電波の調子、気候、人口、多くいる年齢層が異なる。搬送する上で、土地柄を理解することも必要だと学んだ。その他にも、交通量の多い道路上での活動など危険を伴う場所では、状況評価が非常に大切である。交通を完全に止めない場合などに安全と判断する匙加減も難しいと感じた。

私が来年実習をする際は傷病者対応に重きを置いて活動したい。そのために今回聴講した内容を参考に、傷病者にとって最善の対応ができるよう学習していく。最後に、今日のコロナ禍のように、その時のウイルスの流行や社会情勢にも目を向け学びたい。

### 吉澤 美海

先輩方は新型コロナウイルス感染拡大の影響で一日の実習となってしまったとのことでありましたが、出動できた方もそうでなかった方も様々な経験をされていて、私も来年度がますます楽しみになりました。単に症例を経験するだけでなく、本人や家族に対しての接遇や、玄関で靴を脱ぐ際、揃えるなどといった基本的な行動から、様々な人に見られているという意識を、出動し隊服を身につけている時でもそうでない時でも、日頃から持つことの大切さを学びました。また、時には消防業務だけでなく、地域の防災活動や、社会科見学への対応など、地方公務員だからこそ、地域に密着した活動ができるのも消防の強みであると感じました。今の新型コロナウイルス感染症のような、社会的背景一つで大きく活動に影響を及ぼしてしまうことを知り、活動の複雑さが故に救命に成功できた時の達成感を味わってみたいと思いました。希望する消防機関は印西地区消防本部です。多くの先輩方が同乗実習を行っていた西白井消防署は私の住んでいる地域です。白井市は人口があまり多くはありませんが、地域密着型での政策が進んでいることもありとても住みやすい街です。ですが、近年若者の都市部への流出が多く、高齢化が進んでいることも事実です。地元で就職するかどうかは決めていませんが、高齢化に対応した救急医療情報シートの活用例や、進んだ北総地域のプロトコール、気候や地形を理解しているからこそ得られることがあると思っています。

学内臨地実習（遠隔中継で感染防止を徹底。救急車を使用し、リアルな状況設定を実施）



2020年度 救急車同乗実習 実施結果報告書

発行日 2021年2月

発行 日本体育大学 救急医療学科

所在 〒227-0033 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221-1

日本体育大学 保健医療学部 救急医療学科

(担当:中澤・小倉・鹿野・星・三橋)

